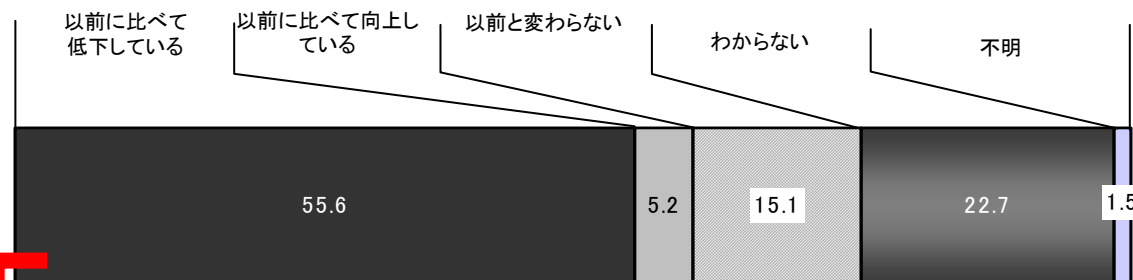


4 地域の教育力

4-1 地域の教育力低下に対する認識

保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、過半数が「以前に比べて低下している」(55.6%)と回答している。一方、「以前に比べて向上している」(5.2%)、「以前と変わらない」(15.1%)は低い割合にとどまっている。

(%)



その理由

個人主義が浸透してきているので
(他人の関与を歓迎しない)

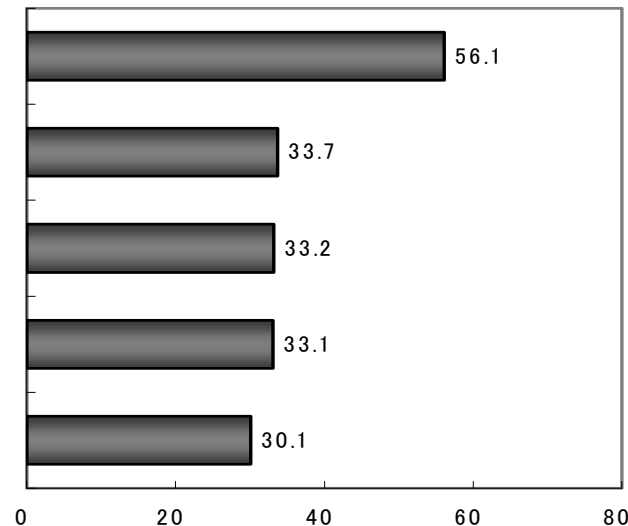
地域が安全でなくなり、子どもを他人と
交流させることに対する抵抗が増している

近所の人々が親交を深められる
機会が不足している

人々の居住地に対する
親近感が希薄化している

母親の就労が増加している

(%)



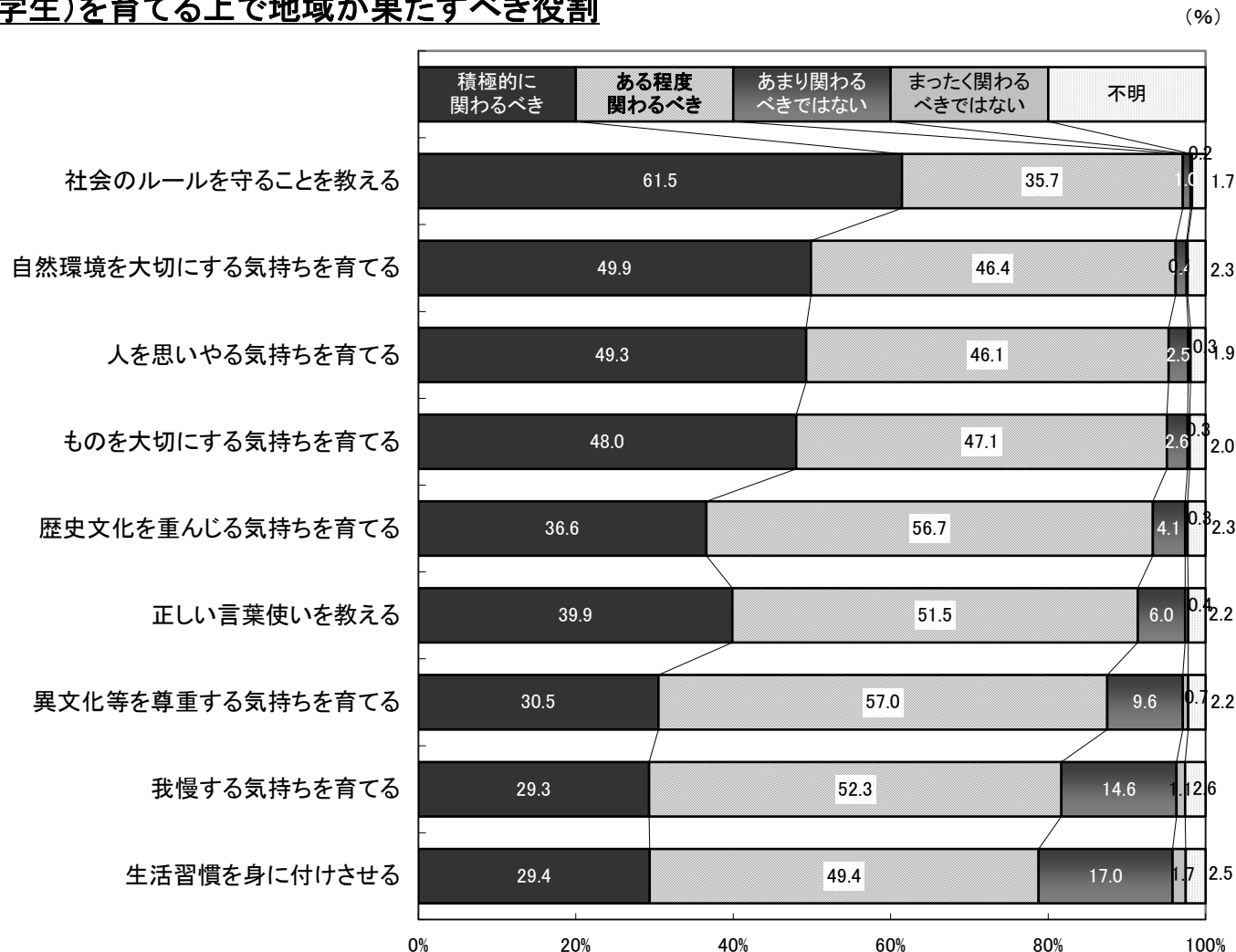
(出典)平成18年3月 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」

※14項目の中から3つまで選択。上記グラフは上位5項目の回答率。

4-2 地域が果たすべき役割

「社会のルールを守ることを教える」について「積極的に関わるべき」が6割以上と最も高い。
→ 保護者は、子どもに対して社会規範を教えることを重視していることがうかがえる。

子ども(小・中学生)を育てる上で地域が果たすべき役割



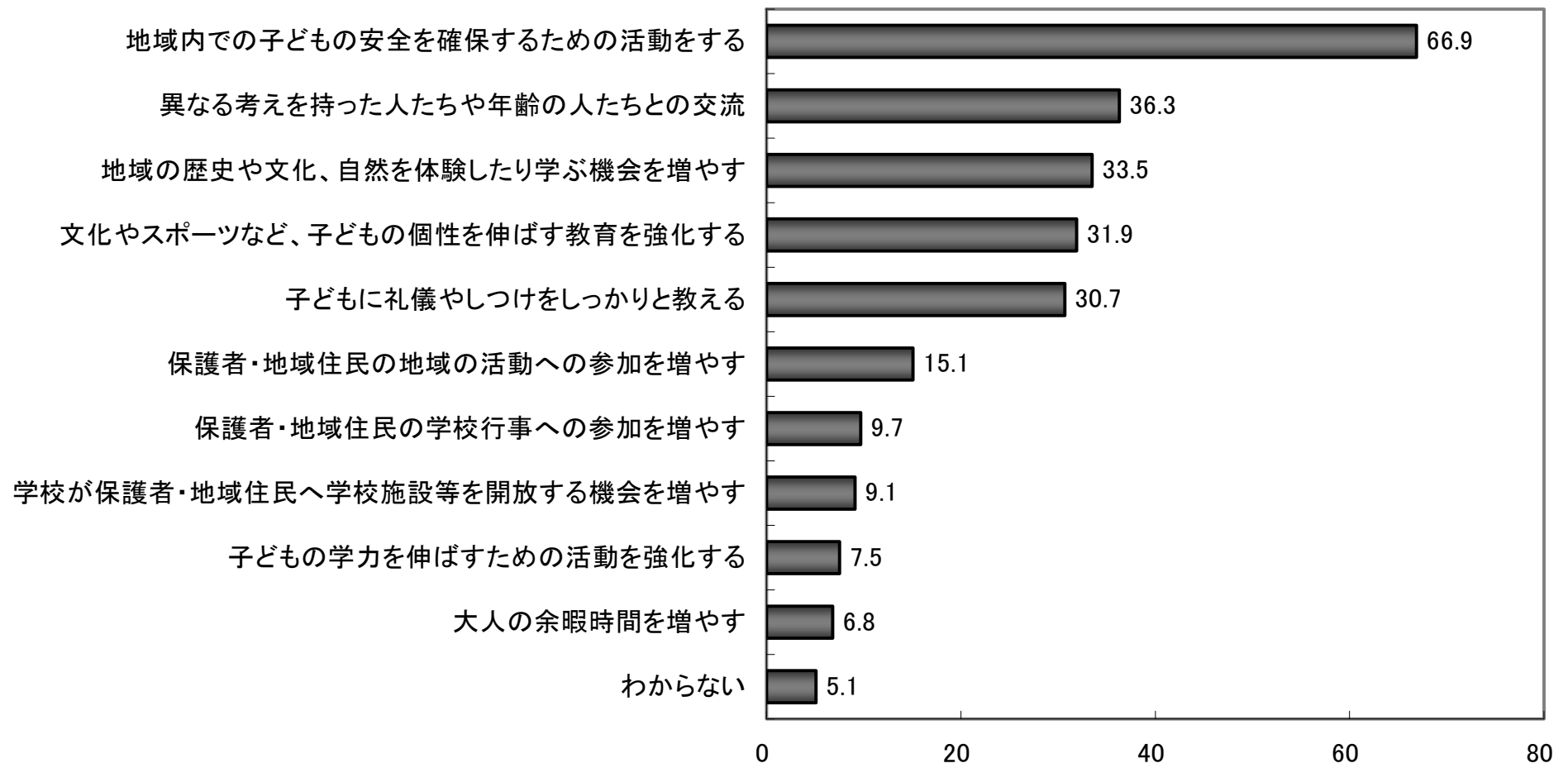
資料: 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)

4-3 地域で力を入れるべきこと

地域で力を入れるべきこととして、子どもの安全を確保するための活動を挙げる保護者の割合が最も高い。

子どもが健やかに育まれるために地域で力を入れるべきこと

(%)

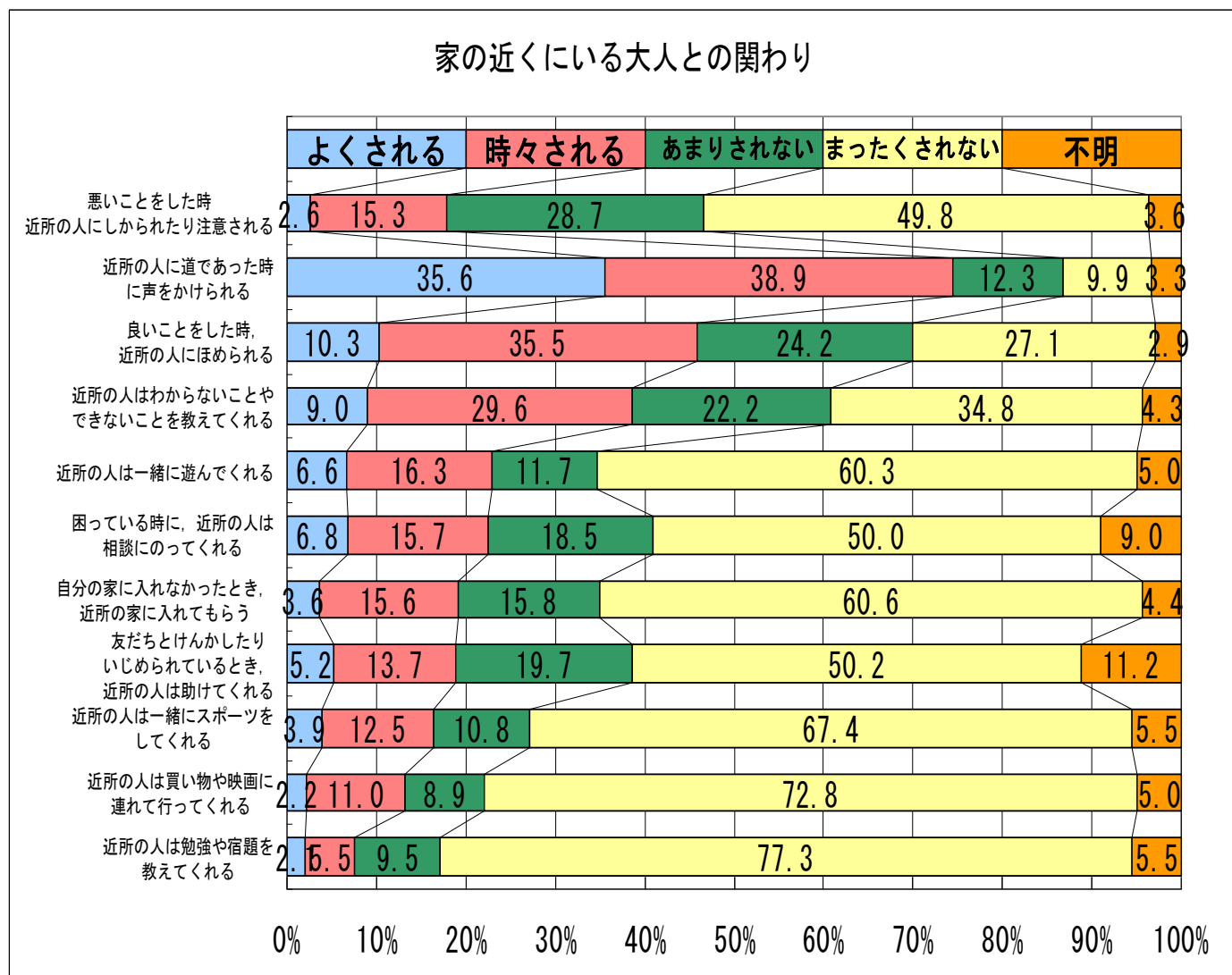


※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

(出典)平成18年3月 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」(調査時期は平成17年10月～11月中旬)

4-4 家の人や学校の先生以外の大人から注意された経験

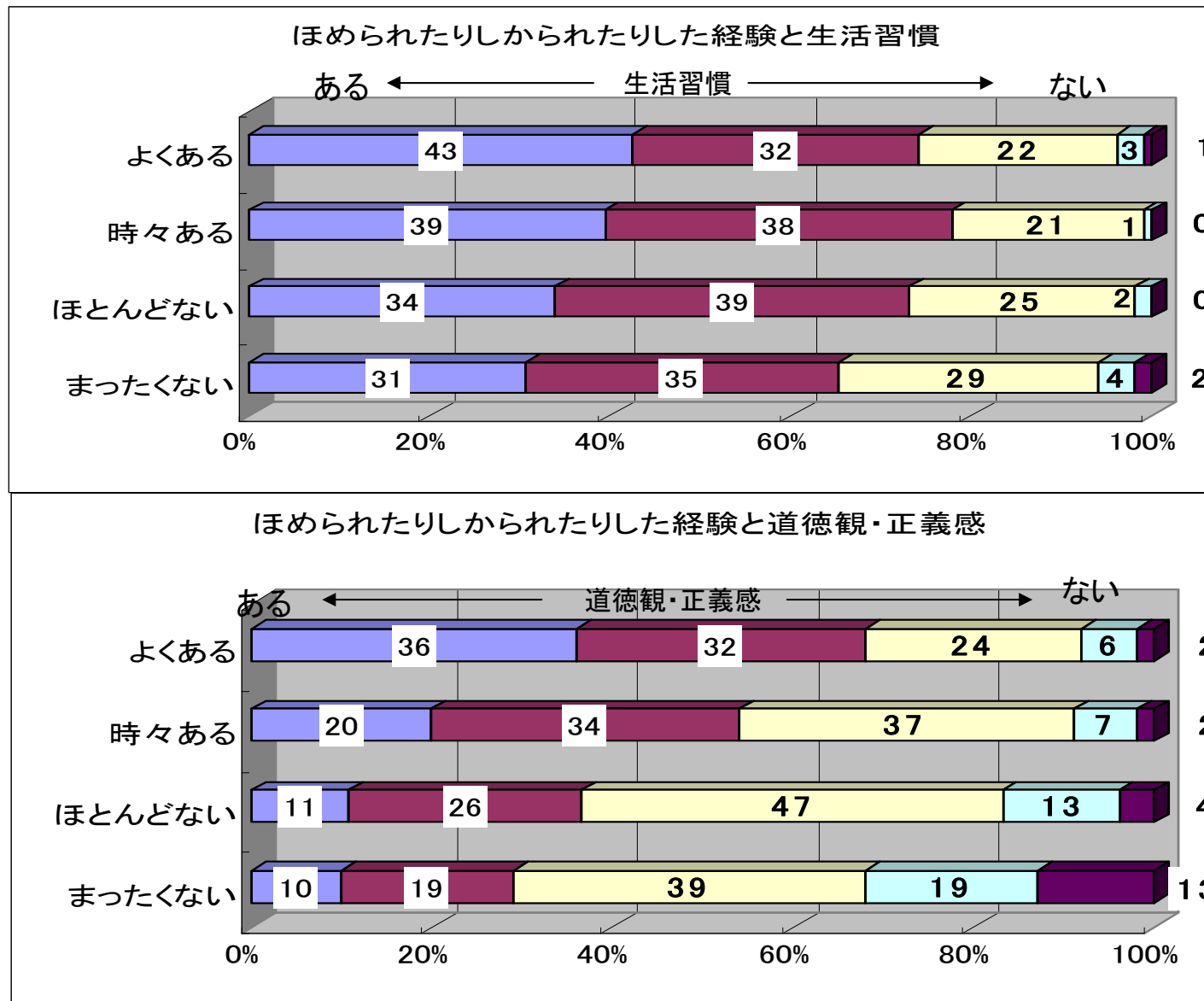
近所の大人からしかられたり助けられたりした経験のある青少年が少ない。



※ 小学2・5年生、
中学2年生

日本総合研究所
「地域の教育力に関する
実態調査」(平成18年)

大人からほめられたりしかられたりした経験の多い小中学生には、生活習慣や道徳観・正義感が身に付いている者が多い。



(独)国立青少年教育振興機構 『「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」報告書 平成17年度調査』(平成18年)

【4-5 地域活動への大人の参加】

① 過去1年間の地域活動への参加率

男女とも10・20代の「地域活動参加なし」が約6割。(教育・文化については、男性40代と女性30・40代が他の年代に比べ相対的に高く、約2～3割。)

→ 教育を含め、様々な地域活動へ参加している人の割合は、各分野とも総じて低い割合にとどまっている。

	N	地域活動(趣味)	地域活動(健康・スポーツ)	地域活動(教育・文化)	地域活動(環境美化)	地域活動(交通安全)	地域活動(防犯・防災)	地域活動(福祉・保健)	地域活動(祭りなど催し物)	その他	地域活動参加なし
Total	10060	7.2%	22.0%	11.1%	14.5%	5.1%	7.4%	5.5%	30.6%	2.3%	43.4%
男性10代	270	1.1%	21.1%	3.7%	4.1%	1.9%	1.9%	1.5%	22.6%	0.0%	56.7%
男性20代	561	3.7%	12.1%	3.6%	5.3%	1.1%	4.5%	2.1%	16.2%	1.4%	66.5%
男性30代	752	1.7%	17.6%	9.6%	9.8%	2.8%	7.0%	1.6%	27.5%	1.2%	52.8%
男性40代	898	4.3%	23.5%	19.0%	17.5%	6.2%	10.5%	2.9%	34.3%	2.1%	37.2%
男性50代	1071	4.3%	22.0%	7.2%	21.8%	6.6%	11.5%	4.7%	33.5%	2.6%	41.4%
男性60代	1086	10.9%	25.9%	4.7%	22.1%	8.7%	12.2%	7.2%	29.7%	3.9%	37.9%
女性10代	255	2.0%	12.2%	3.9%	4.7%	1.2%	2.4%	3.9%	28.6%	0.4%	59.6%
女性20代	691	2.3%	9.1%	5.6%	5.2%	1.0%	1.2%	3.0%	21.3%	0.4%	64.5%
女性30代	1092	5.2%	21.0%	26.7%	10.9%	6.5%	4.5%	2.6%	38.6%	1.5%	38.7%
女性40代	1091	9.4%	25.0%	22.4%	17.1%	8.5%	6.6%	5.2%	37.5%	2.2%	32.6%
女性50代	1241	12.7%	24.3%	6.0%	15.5%	2.6%	7.7%	8.9%	30.3%	3.0%	39.4%
女性60代	1052	14.3%	27.6%	5.6%	16.0%	5.0%	7.6%	14.3%	28.8%	4.2%	37.1%

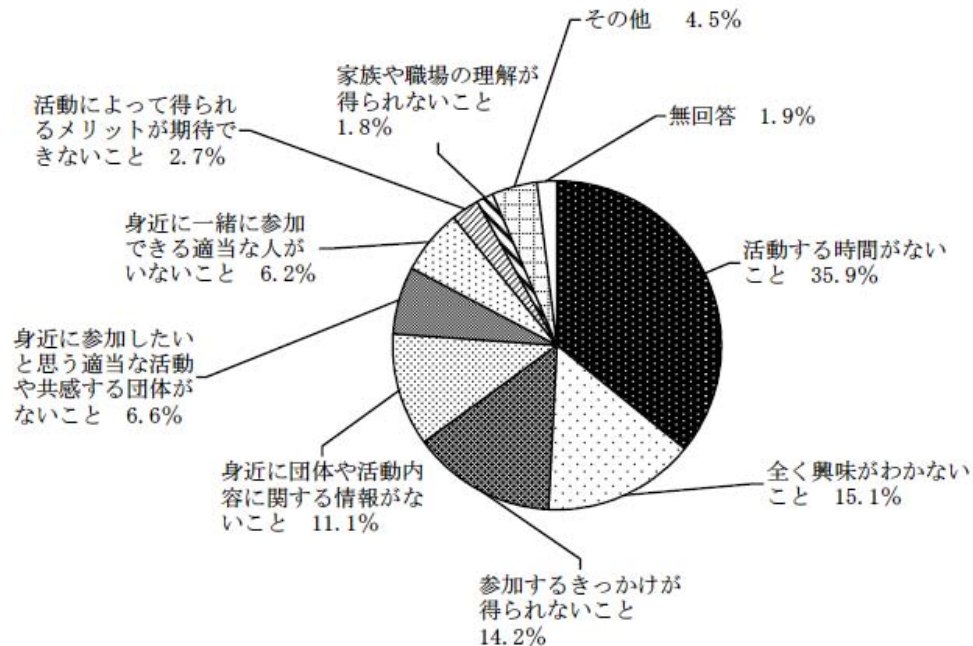
(出典)野村総合研究所「生活者1万人アンケート調査(2003年)」

※有効回答者数:15～69歳までの男女10,060人(訪問留置法)

【4-5 地域活動への大人の参加】

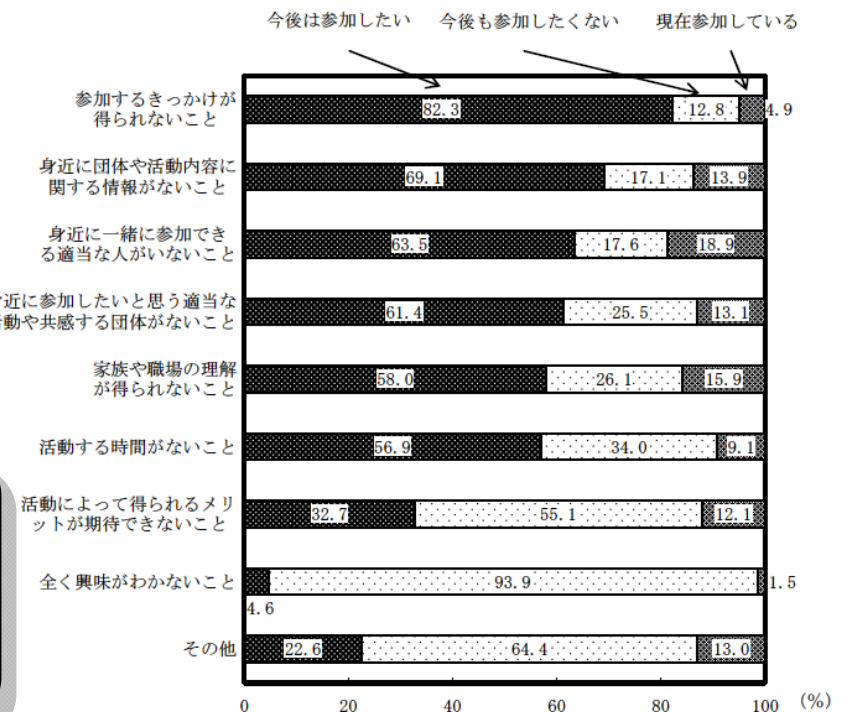
② 地域の活動などへの参加を妨げる理由

地域の活動への参加を妨げる要因としては、仕事等のために時間がないこと(約36%)のほかに、参加するきっかけが得られないこと(約14%)や、情報がないこと(約11%)などを挙げる人が多い。



参加を妨げる要因として「参加するきっかけが得られないこと」や「情報がないこと」を挙げている人の中には、他の要因を挙げた人に比べ、今後参加したいという希望を持っている人が多い、これらの者は条件が整えば参加する可能性が相当程度あるものと考えられる。

地域の活動などへの参加に関する今後の意向 (参加を妨げる要因別)



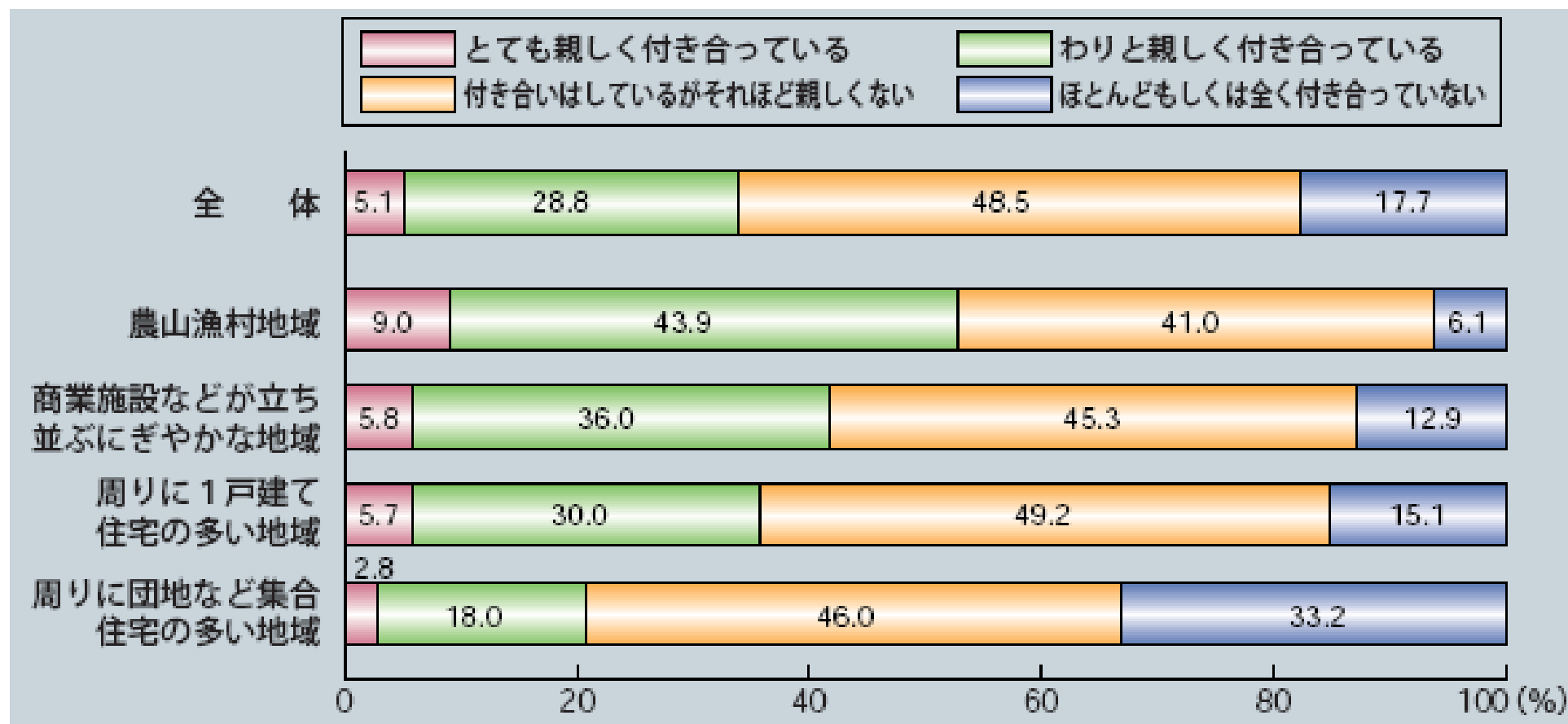
資料：内閣府「国民生活選好度調査」(平成15年度)

※有効回答者数：全国の15～79歳までの男女3,908人

4-6 現在の近所づきあいの程度

「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」を合わせると、「農産漁村地域」では約5割であるが、「周りに団地など集合住宅の多い地域」では約2割となっている。

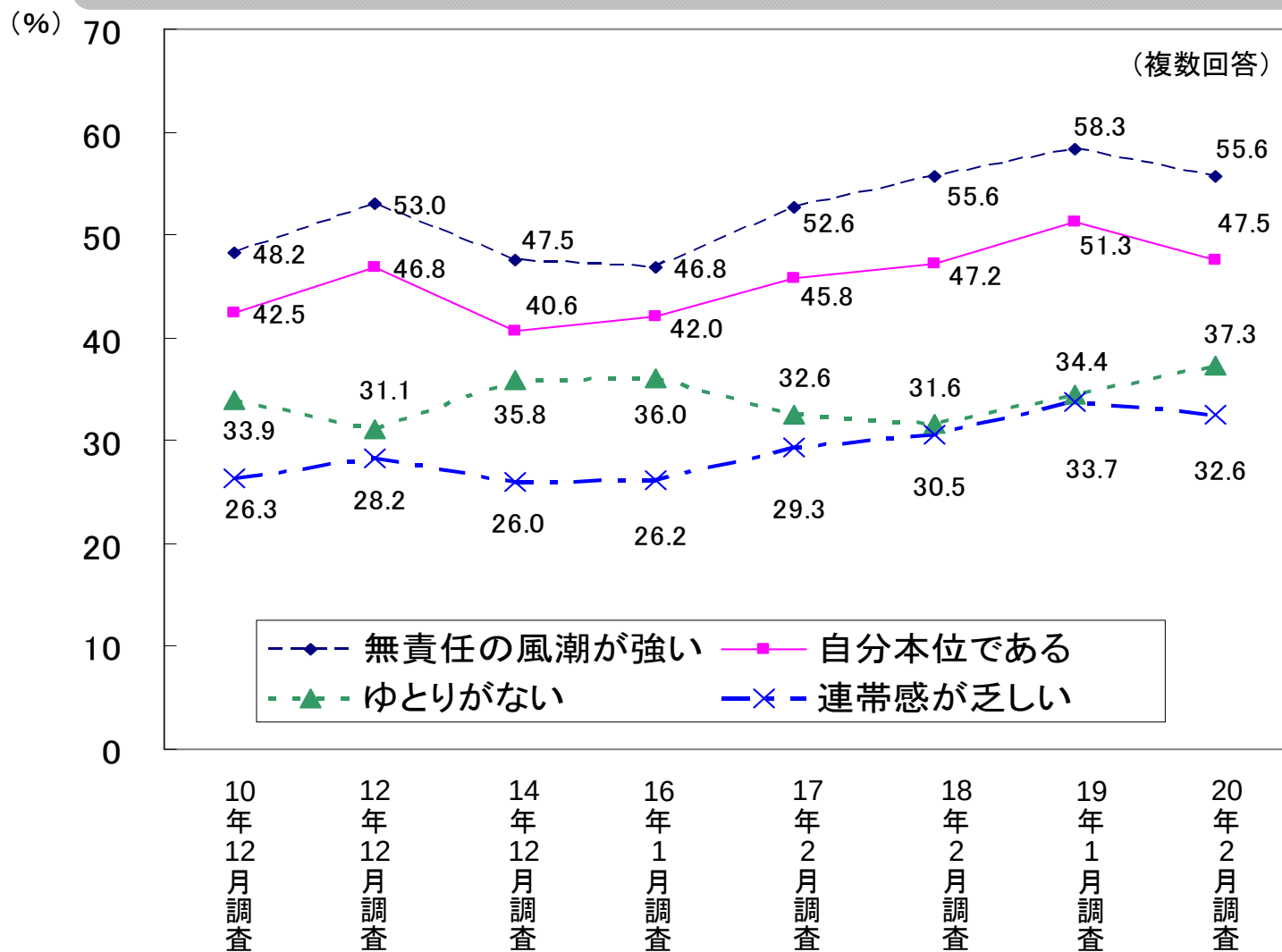
→ 地域における人間関係については、農村部と都市部とでは状況が異なっていることから、このような地域の特性等を踏まえた柔軟な取組が必要となっている。



(出典)内閣府「平成16年版国民生活白書」(内閣府「国民生活選考度調査」(平成16年)をもとに作成)

4-7 現在の世相に関するイメージ（暗いイメージ）

現在の世相に関するイメージ(暗いイメージ)として、「無責任の風潮が強い」、「自分本位である」等々を挙げる人の割合が増加傾向にある。



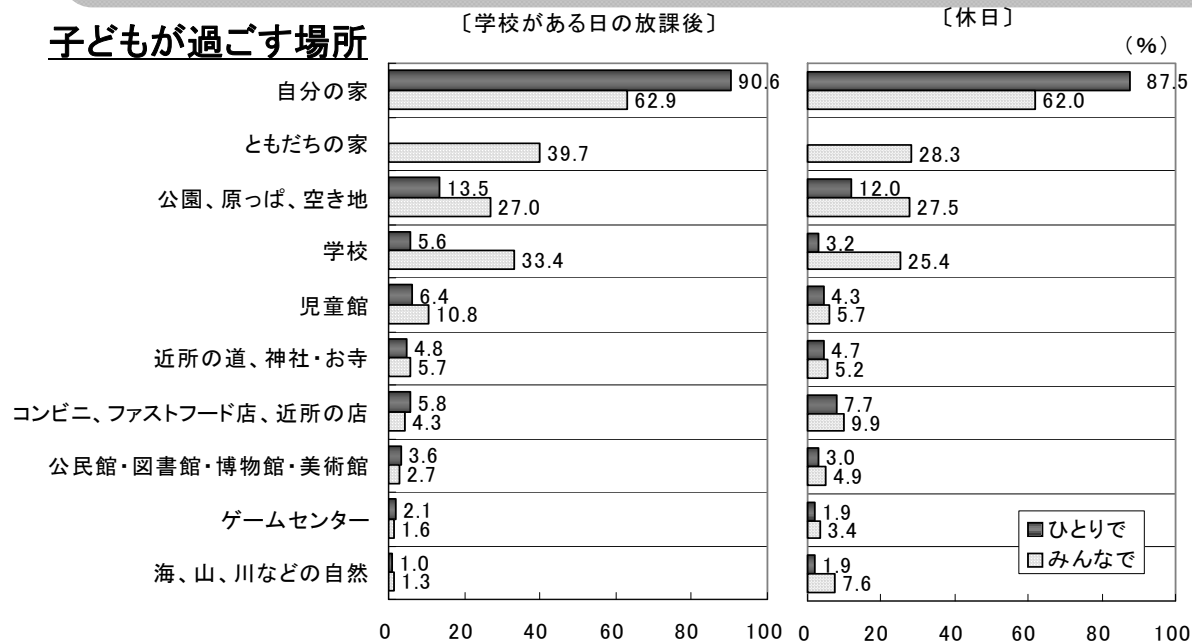
内閣府 「社会意識に関する調査」

【4-8 小・中学生の放課後・休日の過ごし方】

① 放課後・休日に過ごす場所

ひとりで過ごす場所は、平日・土日とも「自分の家」が約9割。
 みんなで過ごす場所は、「家」は約6割、次いで「公園・原っぱ・空き地」「学校」が約3割。
 → ひとりの時もみんなで過ごす時も子どもの活動は屋内中心。

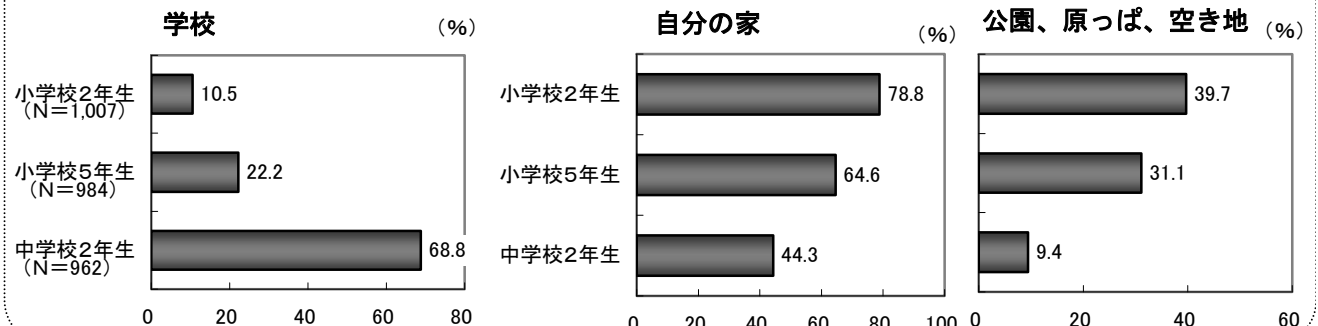
子どもが過ごす場所



学年別の放課後に過ごす場所の傾向は、高学年ほど学校で過ごす割合が高く、低学年ほど自分の家や地域内(公園・原っぱ・空き地)で過ごす割合が高い。

※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

学年によって回答割合に大きな違いが出た場所 (学校がある日の放課後)



資料: 文部科学省委託

「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)

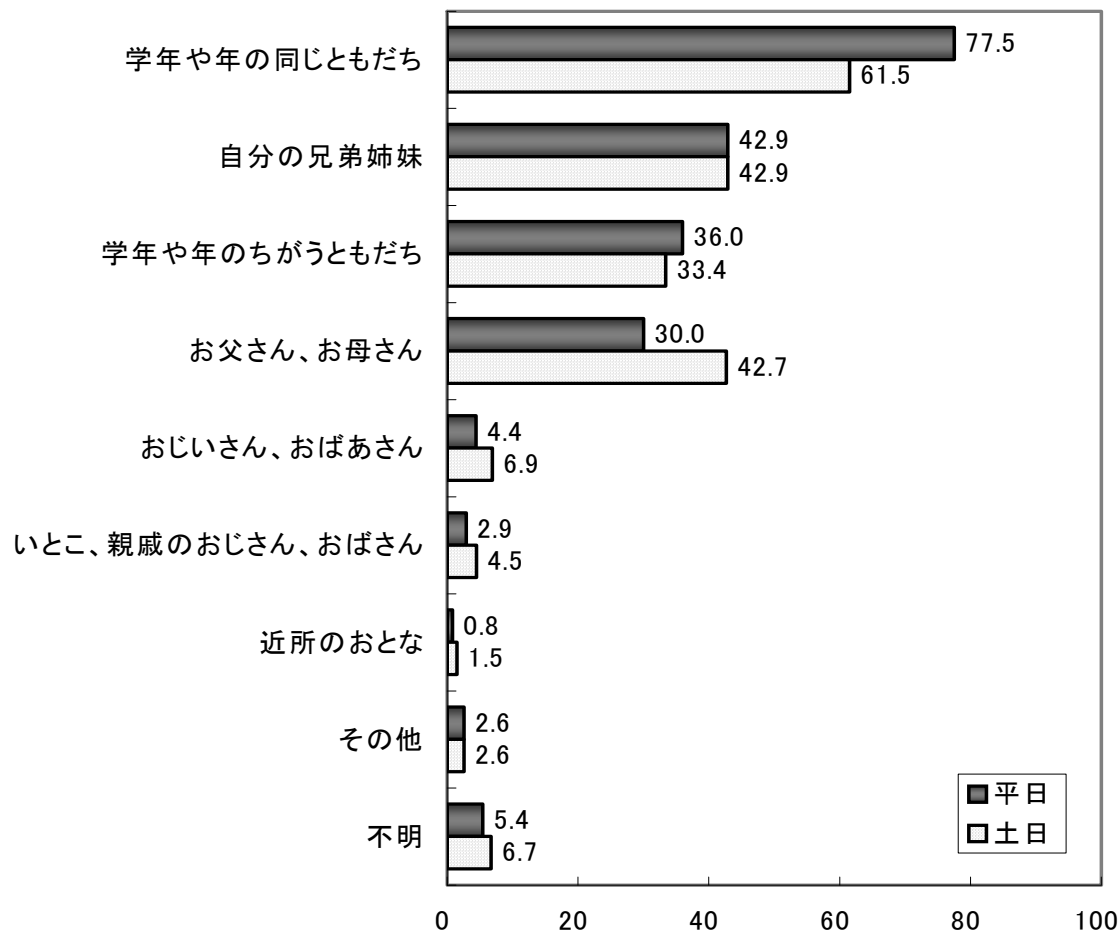
【4-8 小・中学生の放課後・休日の過ごし方】

② 放課後・休日に一緒に過ごす相手

放課後、土日ともに「学年や年の同じともだち」が6～7割と最も高い。「学年や年のちがうともだち」は3～4割。 → 子どもは同年齢の友達や家族以外の異世代との交流機会が少ない。

一緒に過ごす相手

(%)

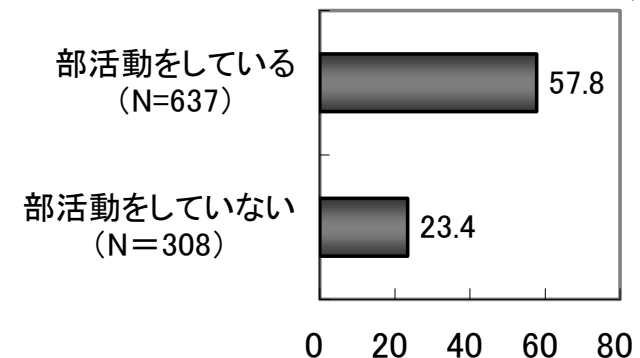


※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

学年別に見ると、学年が上がるにつれ、交流範囲が家族から学校の友達に以降している。
また、中学生については、部活動をしている方が「学年や年のちがうともだち」との交流が多い。

部活動(中2)の有無のクロス

学年や年のちがうともだち (%)

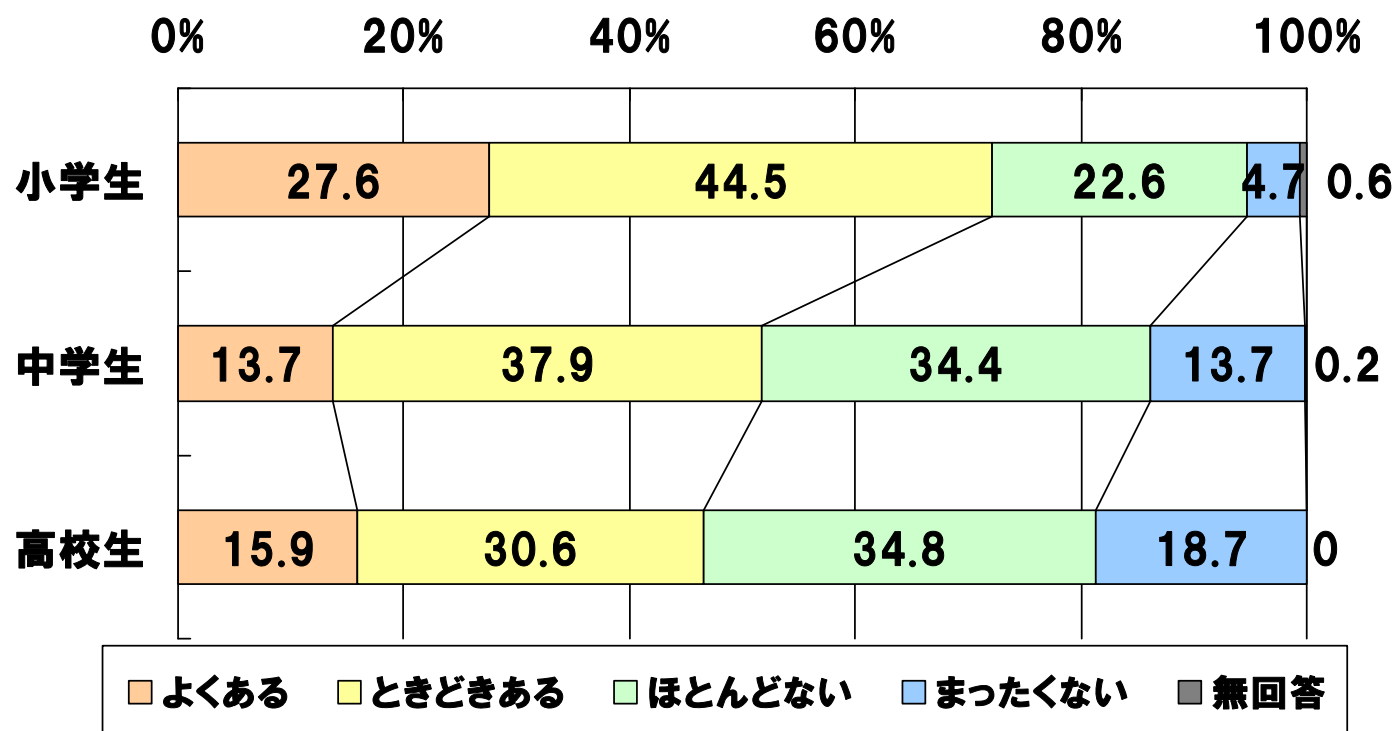


資料: 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)

4-9 家族以外の異なる世代の人々との交流

中学生、高校生になるにつれて異世代との交流が減少してきている。

家族以外の子どもやお年寄りなど世代の異なる人たちとふれあうことについて



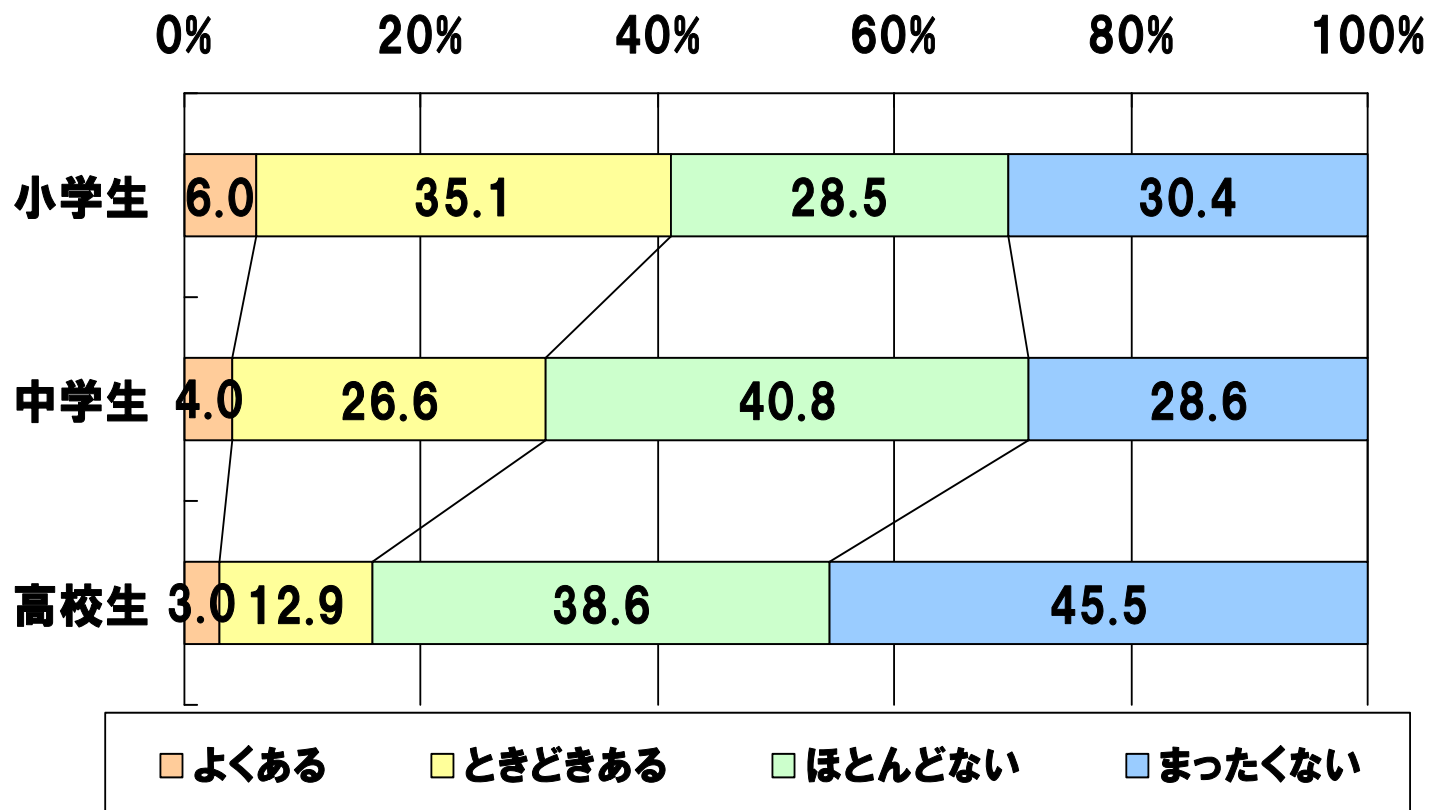
内閣府政策統括官

「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」(平成19年2月)より作成

4-10 ボランティア活動等の参加状況

中学生、高校生になるにつれてボランティア活動等への参加割合が減少している。

地域社会などでボランティア活動やリサイクル運動などに参加することについて



内閣府政策統括官

「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」(平成19年2月)より作成

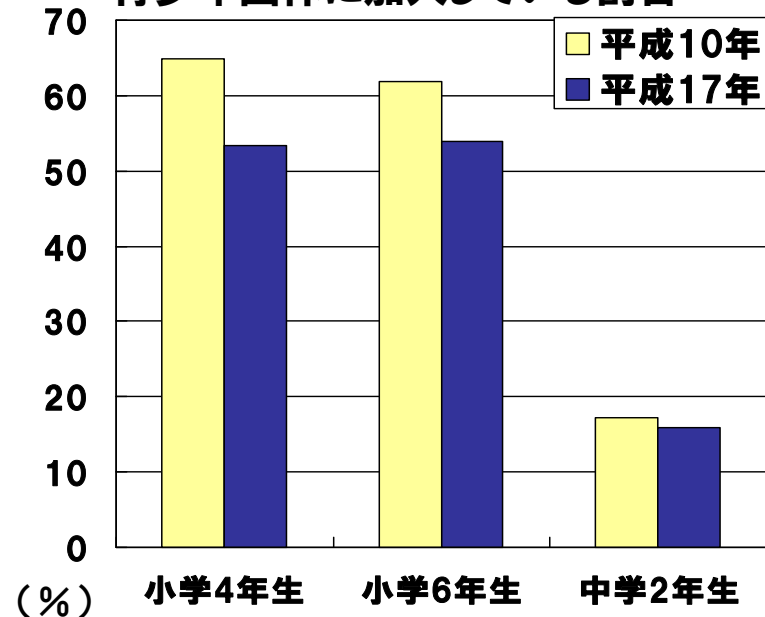
4-11 青少年団体等への加入状況

(加入している割合、行っている活動)

子ども会やスポーツ少年団などの青少年団体への加入率は減少している。
学校の部活動や塾などの活動をしている者が多い。

子ども会やスポーツ少年団などの

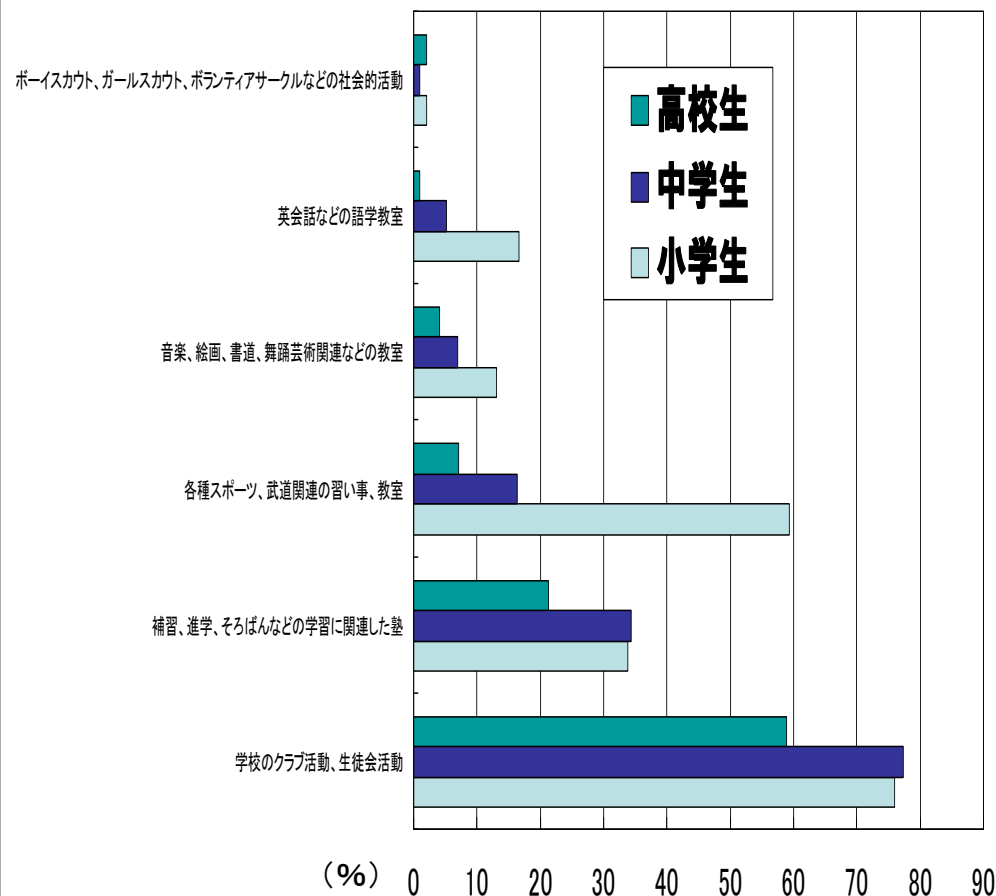
青少年団体に加入している割合



平成10年：子どもの体験活動等に関するアンケート調査報告書
(文部省委嘱)

平成17年：独立行政法人国立青少年教育振興機構
『『青少年の自然体験活動等に関する実態調査』報告書
平成17年度調査』より作成

行っている活動



内閣府政策統括官

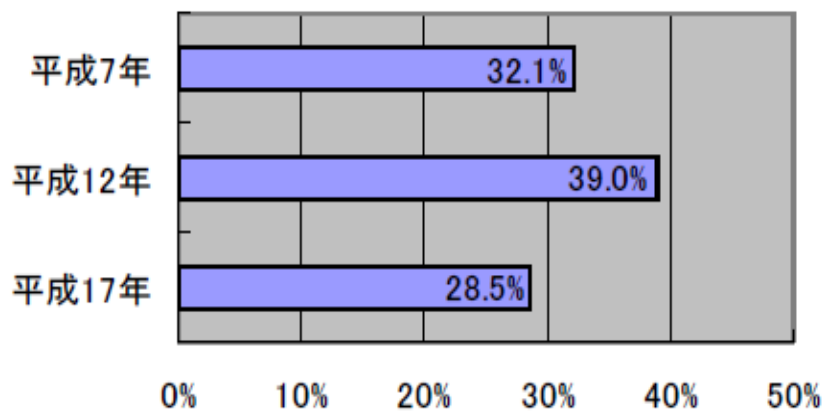
『第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書』
(平成19年2月)より作成

5 子ども

5-1 22時以降に就寝する幼児・24時以降に就寝する中学2年生の割合

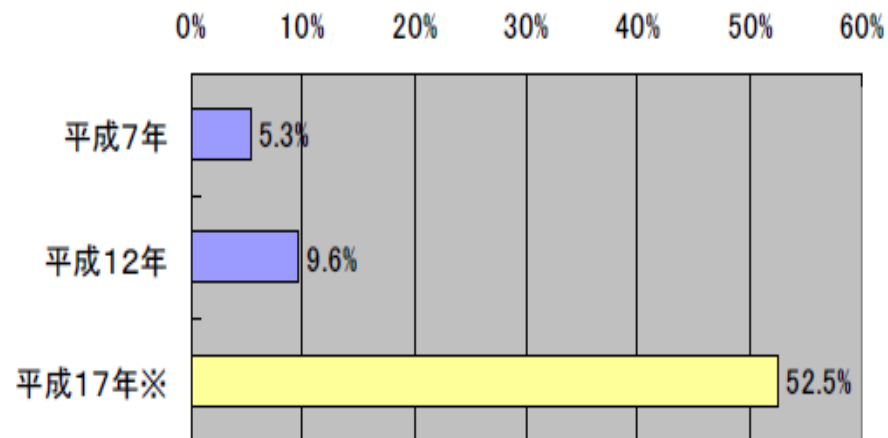
子どもの生活は幼児期から夜型となっている。

22時以降に就寝する幼児の割合



ベネッセ教育開発研究センター
『幼児の生活アンケート(平成17年)』

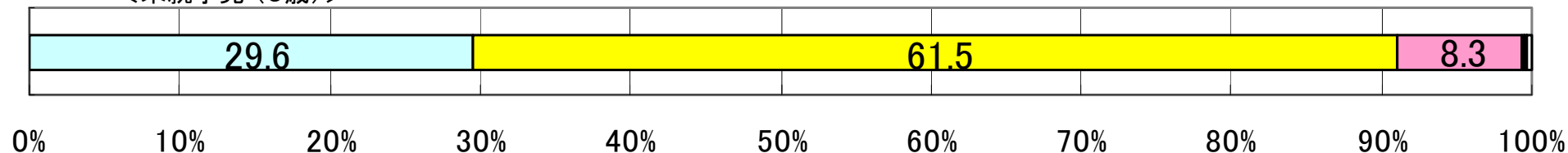
24時以降に就寝する中学2年生の割合



平成7年、平成12年については日本体育・学校保健センター
『平成12年度児童生徒の食生活等実態調査』
平成17年については文部科学省『義務教育に関する意識調査』

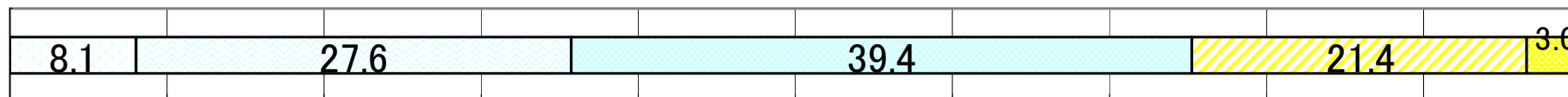
5-2 平日の起床時間の状況 (未就学児、小・中学生)

<未就学児（5歳）>

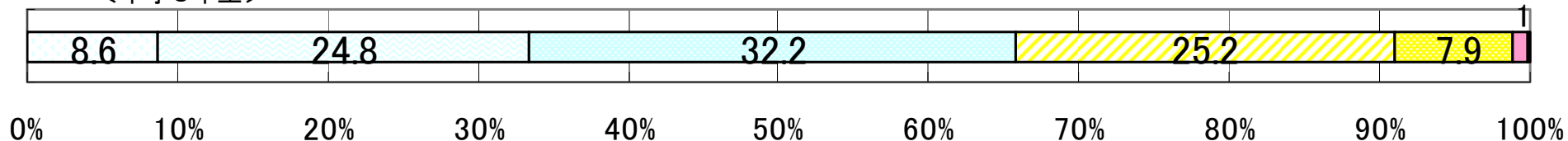


□ 午前7時前 ■ 午前7時台 ■ 午前8時台 □ 午前9時以降 □ 時間が不規則 □ 不詳

<小学6年生>



<中学3年生>



□ 午前6時より前 □ 午前6時以降、午前6時30分より前
 □ 午前6時30分以降、午前7時より前 ■ 午前7時以降、午前7時30分より前
 ■ 午前7時30分以降、午前8時より前 ■ 午前8時以降
 □ その他・無回答

未就学児 : 厚生労働省「第6回21世紀出生児縦断調査」(平成18・19年)

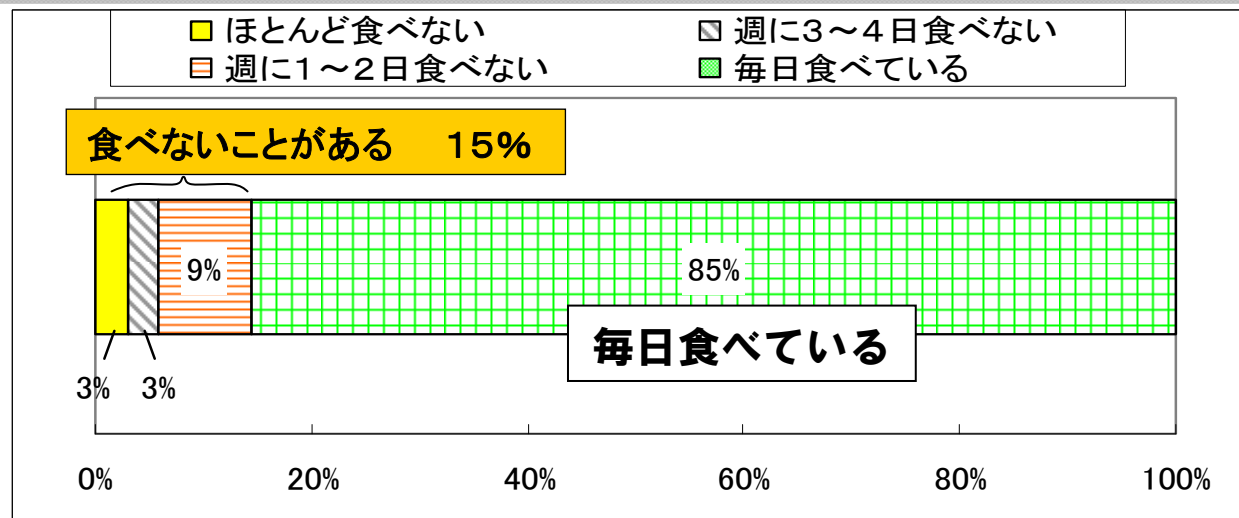
小・中学生 : 文部科学省「全国学力・学習状況調査」(平成20年度)

【5-3 朝食欠食の状況】

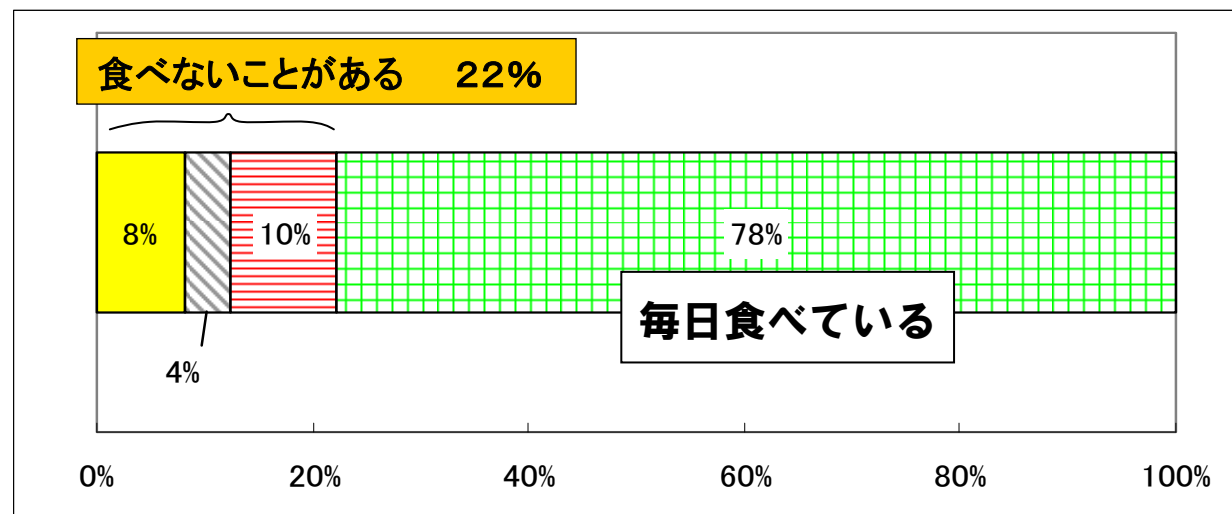
① 朝食を食べないことがある割合

朝ごはんを食べないことのある小・中学生が2割程度いる。

小学生



中学生



※ 調査対象: 全国の小中学生・保護者等 36,000名

出典: 平成17年度文部科学省委嘱調査「義務教育に関する意識調査」より

【5-3 朝食欠食の状況】

② 朝食を食べなかった理由

朝食を食べなかった理由は、「食べたくなかった」「起きるのが遅くて時間がなかった」ことが主な要因。

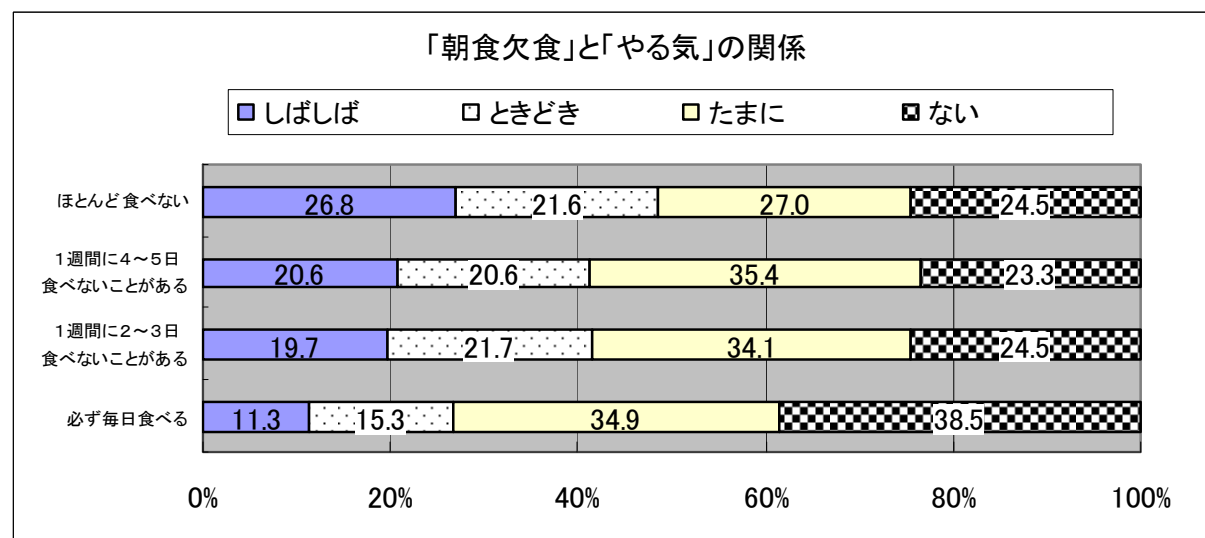
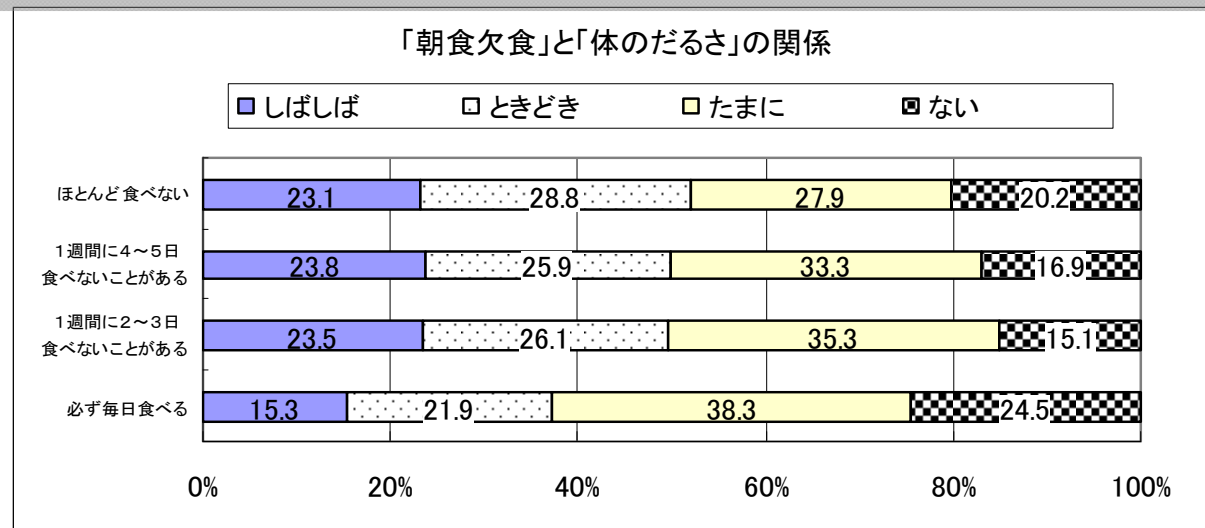
	小学校2年生		小学校4年生		小学校6年生		中学校2年生		高校2年生	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
起きるのが遅くて食べる時間がなかった ので	47,4	31,3	17,4	30,0	26,7	35,4	39,6	31,6	54,9	40,3
食べたくなかった ので	31,6	46,9	47,8	40,0	60,0	50,8	32,1	39,2	23,2	34,9
他の家族もあまり 食べないので	0,0	0,0	0,0	6,7	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	1,6
太りたくない ので	0,0	0,0	4,3	0,0	0,0	0,0	5,7	1,3	0,0	0,0
食事が用意されて いなかった ので	21,1	15,6	17,4	6,7	6,7	7,7	7,5	12,7	8,5	8,5
その他	0,0	6,3	13,0	16,7	6,7	6,2	15,1	15,2	13,4	14,7
有効回答数	19,0	32,0	23,0	30,0	45,0	65,0	53,0	79,0	82,0	129,0

文部科学省「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」(平成14年3月)

【5-3 朝食欠食の状況】

③「朝食欠食」と「体のだるさ」の関係

朝食を欠食する日の多い小中学生ほど、体のだるさを感じている。



(独)日本スポーツ振興センター「平成17年度児童生徒の食生活等実態調査」

【5-3 朝食欠食の状況】

④朝食と学力調査の正答率の関係

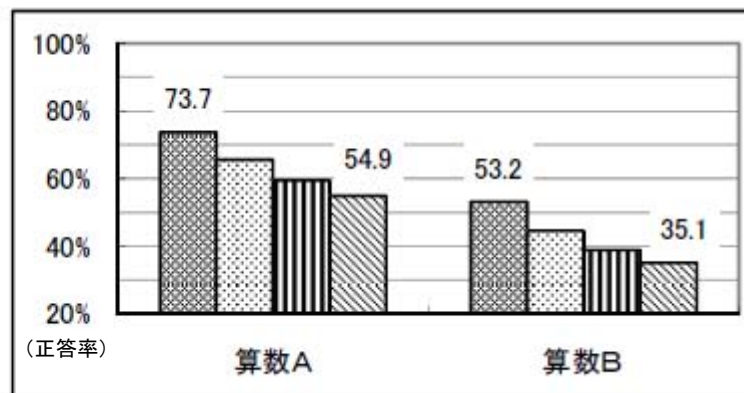
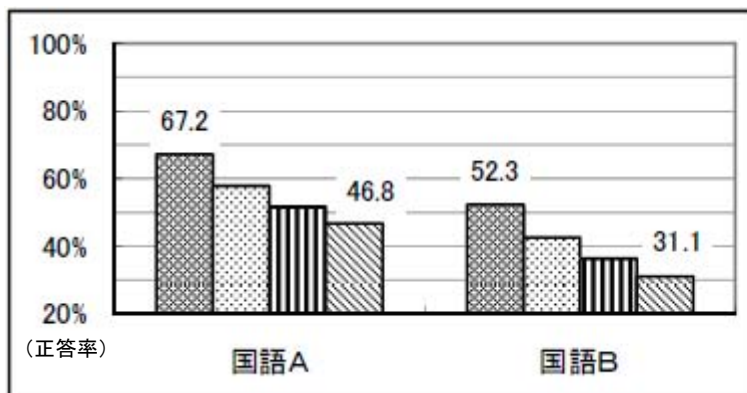
朝食を毎日食べる小中学生の方が、正答率が高い傾向が見られる。

質問:朝食を毎日食べていますか

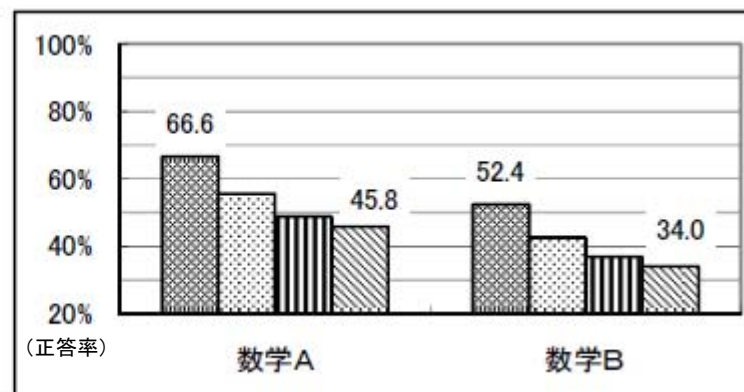
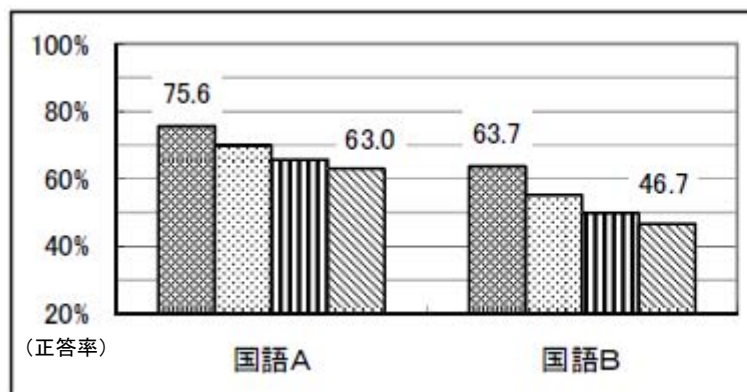
■ している
■ あまりしていない

■ どちらかといえば、している
■ 全くしていない

<小学6年生>



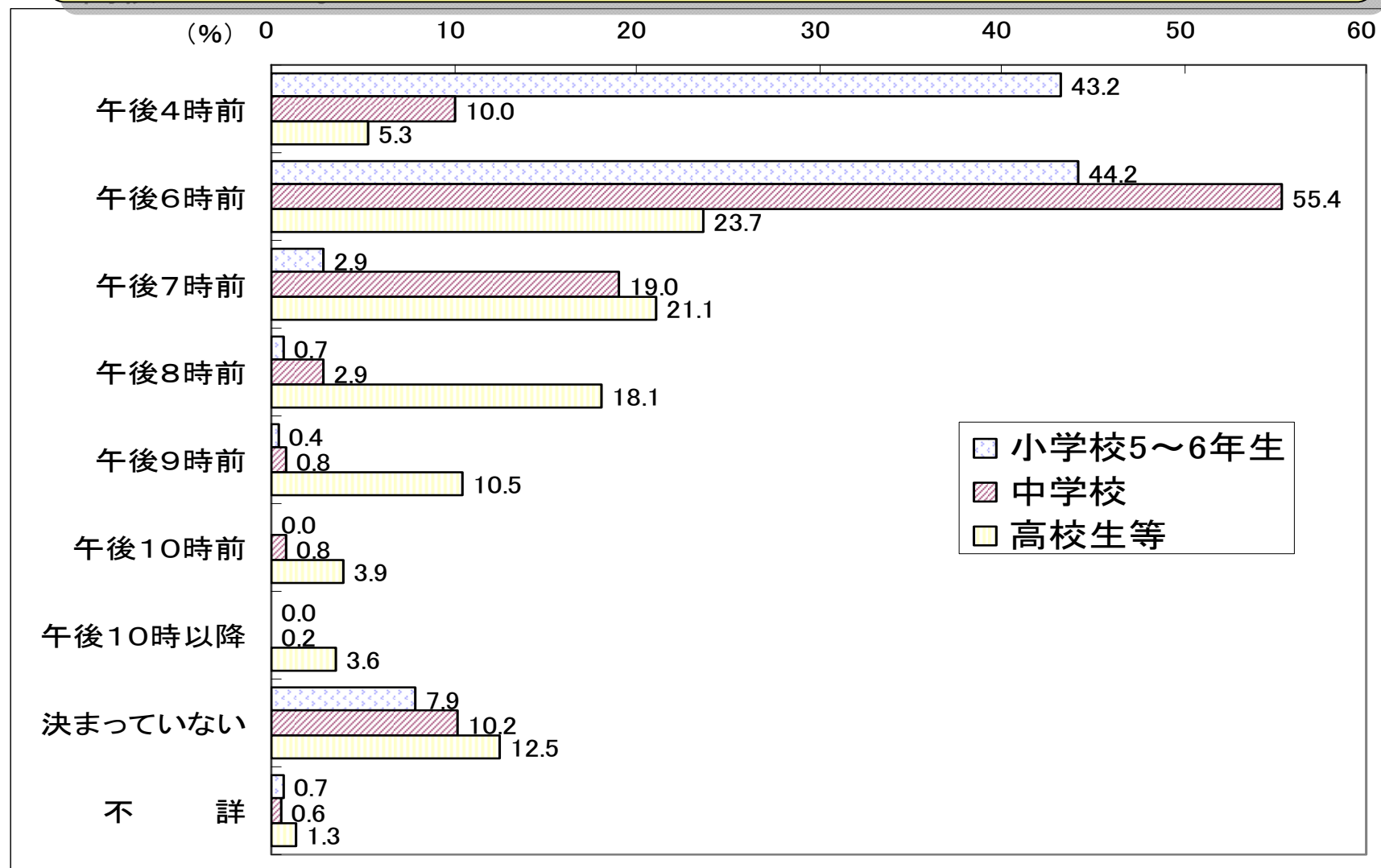
<中学3年生>



文部科学省 全国学力・学習状況調査(平成20年度)

5-4 帰宅時間の状況

午後6時以降に帰宅する子どもは小学生(5・6年生)の約4%、中学生の24%、高校生の57%。

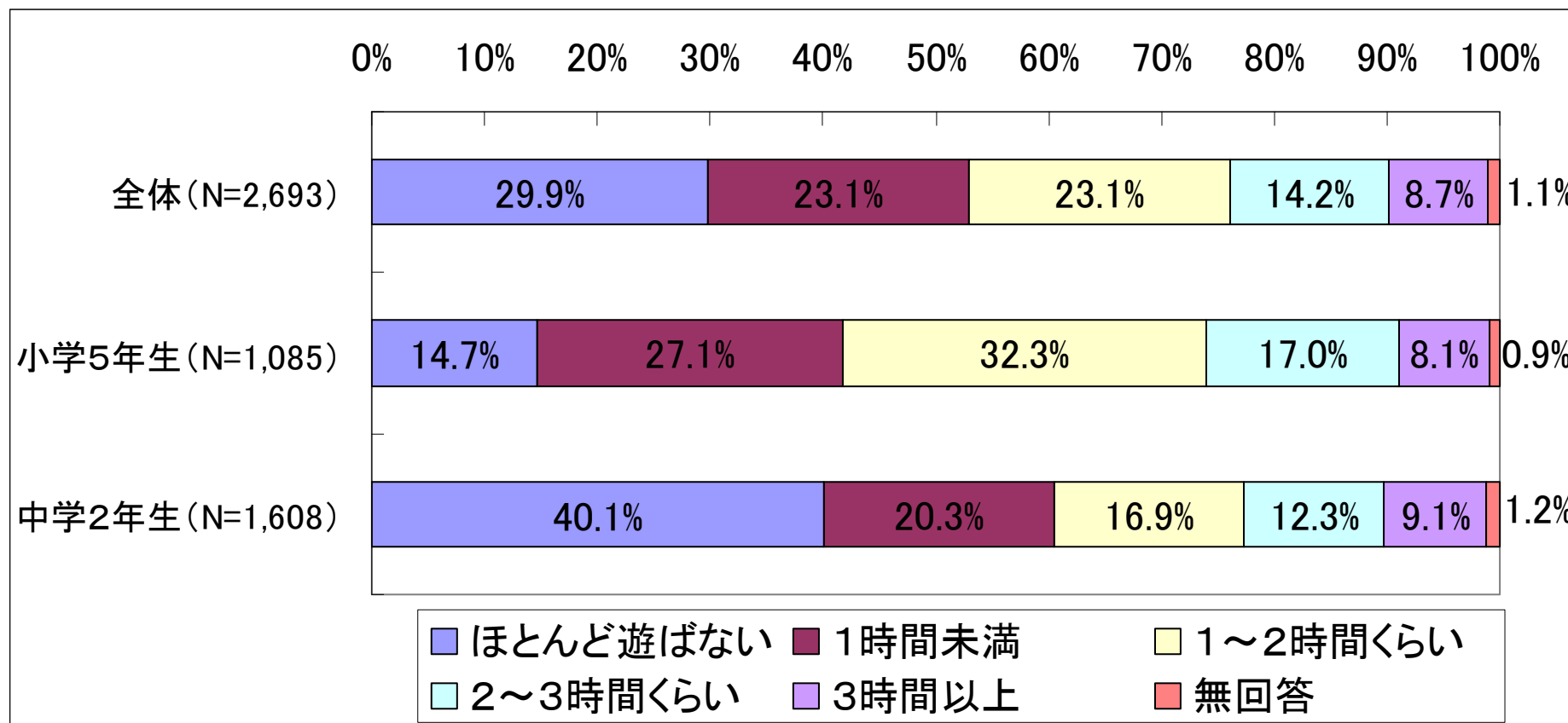


注) 「高校生等」とは「高校」、「各種学校・専修学校・職業訓練校」の合計である。

資料: 厚生労働省 平成16年度全国家庭児童調査

5-5 学校から帰宅後の遊ぶ時間

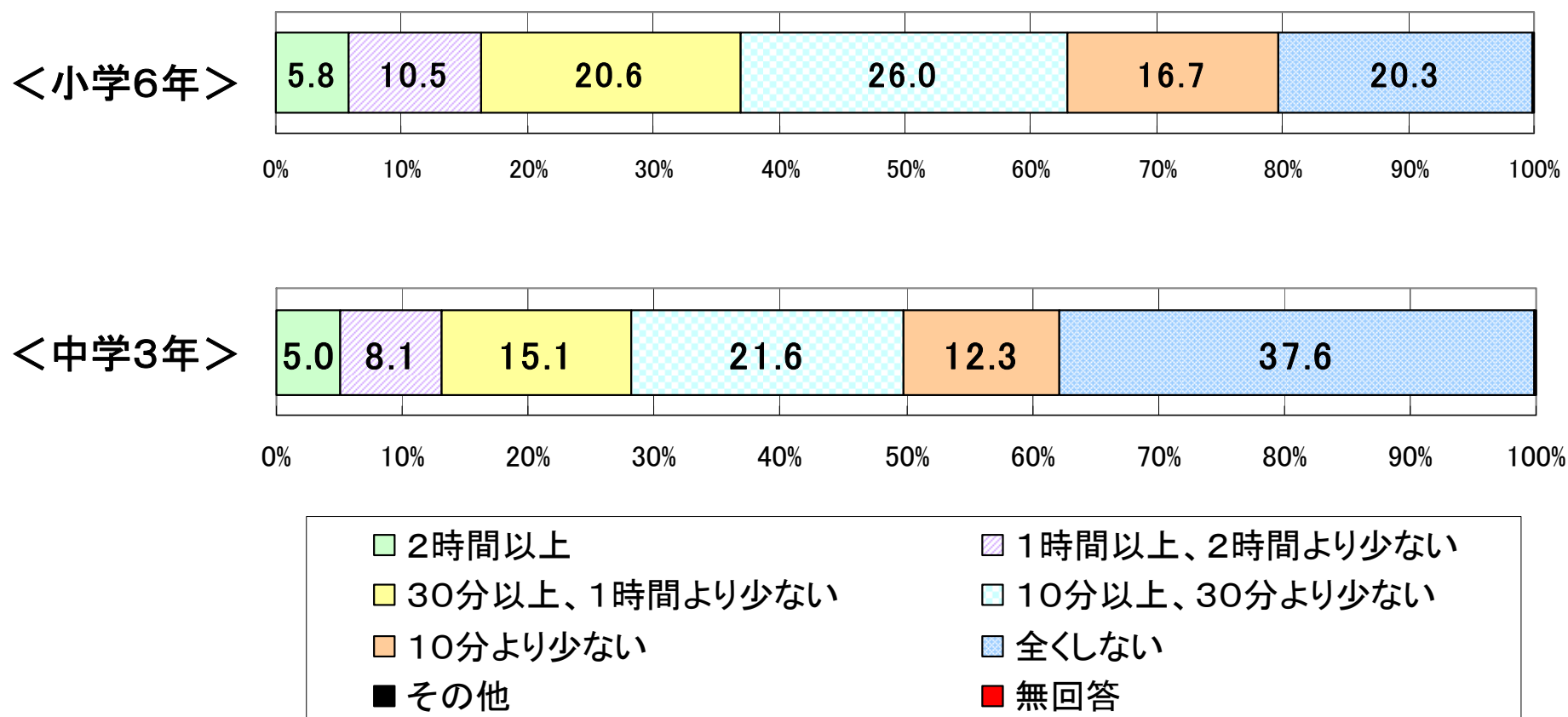
小5、中2の平均3割が学校から帰宅後、ほとんど遊んでいない。



川村学園女子大学子ども研究会
『子どもたちの日常行動や親子関係、
各種体験等に関する調査』
(平成19年6・7月調査)

5-6 平日の学校外における読書時間の状況(小・中学生)

中学生の読書時間は、小学生と比べて短い傾向がある。

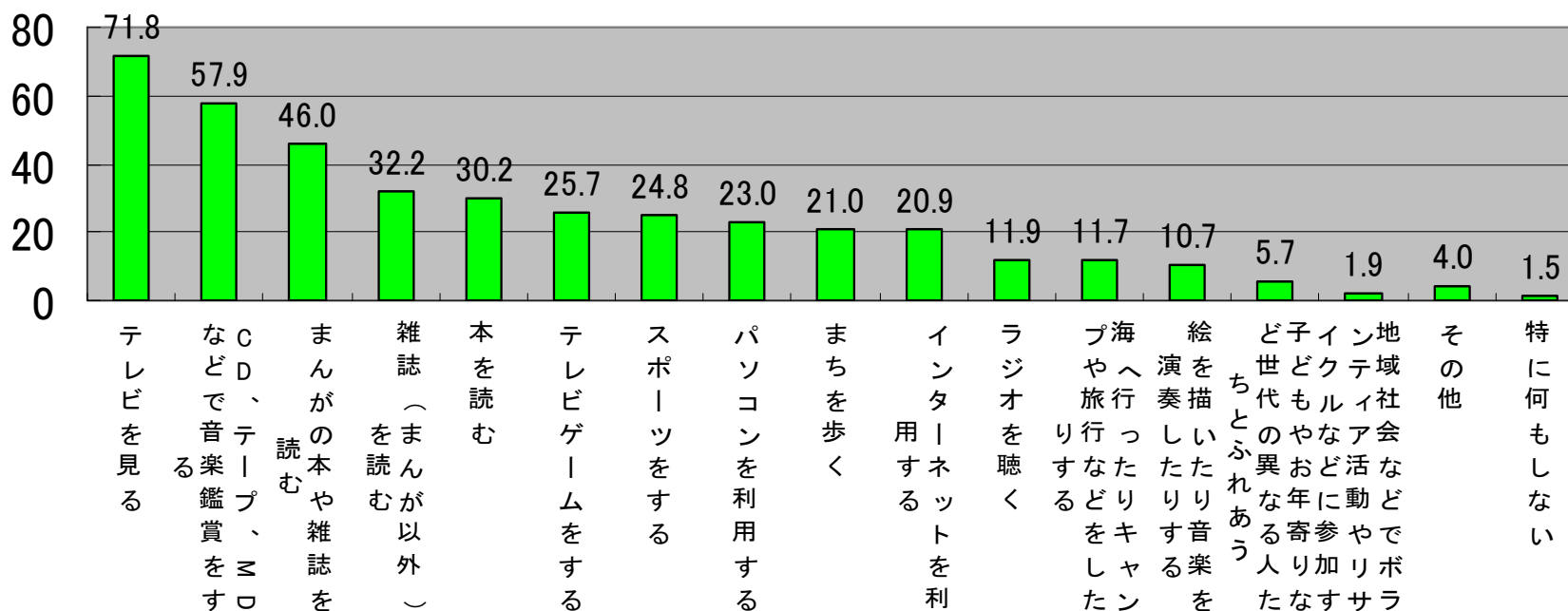


【5-7 多様なメディアとのかかわり】

① 自由時間の過ごし方

青少年の自由時間の過ごし方は一人遊びが多い。

自由時間の過ごし方(12～30歳)



内閣府政策統括官

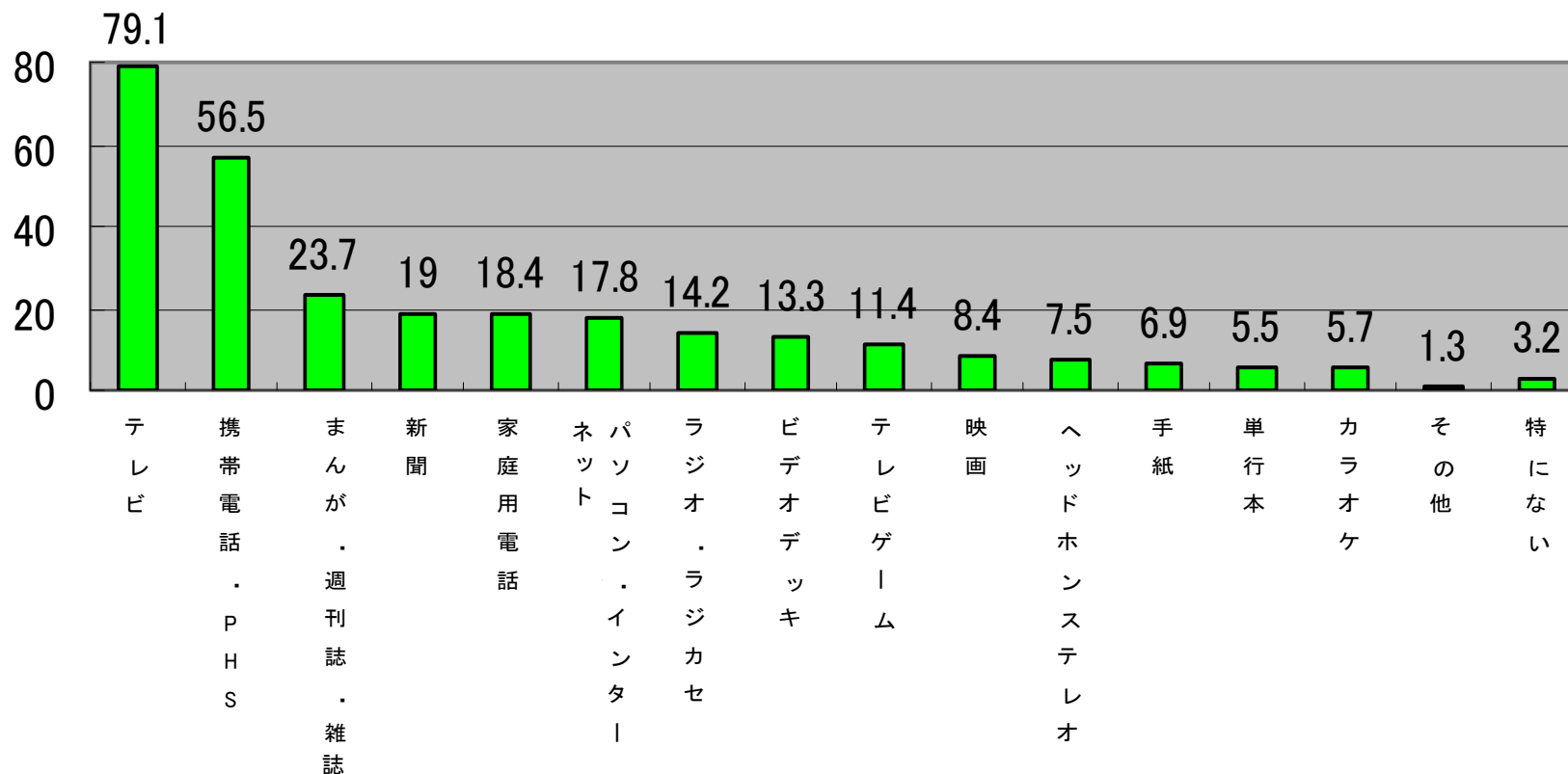
「第4回情報化社会と青少年に関する意識調査」(平成14年7月)

【5-7 多様なメディアとのかかわり】

② なくてはならないもの

5割を超える青少年が「なくてはならないもの」としているものは、「テレビ」と「携帯電話・PHS」のみである。

なくてはならないもの(12～30歳)

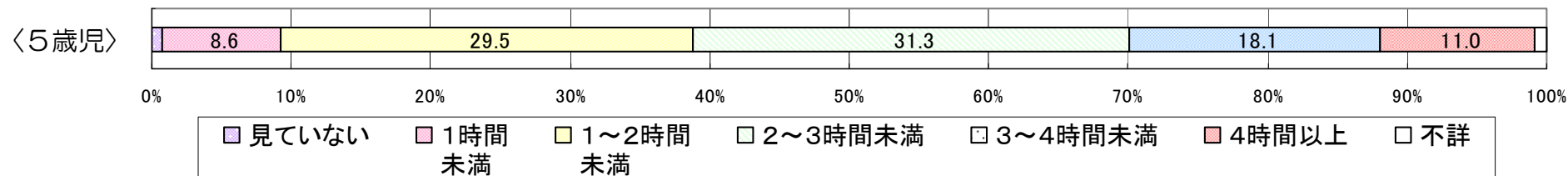


内閣府政策統括官
「第4回情報化社会と青少年に関する意識調査」(平成14年7月)

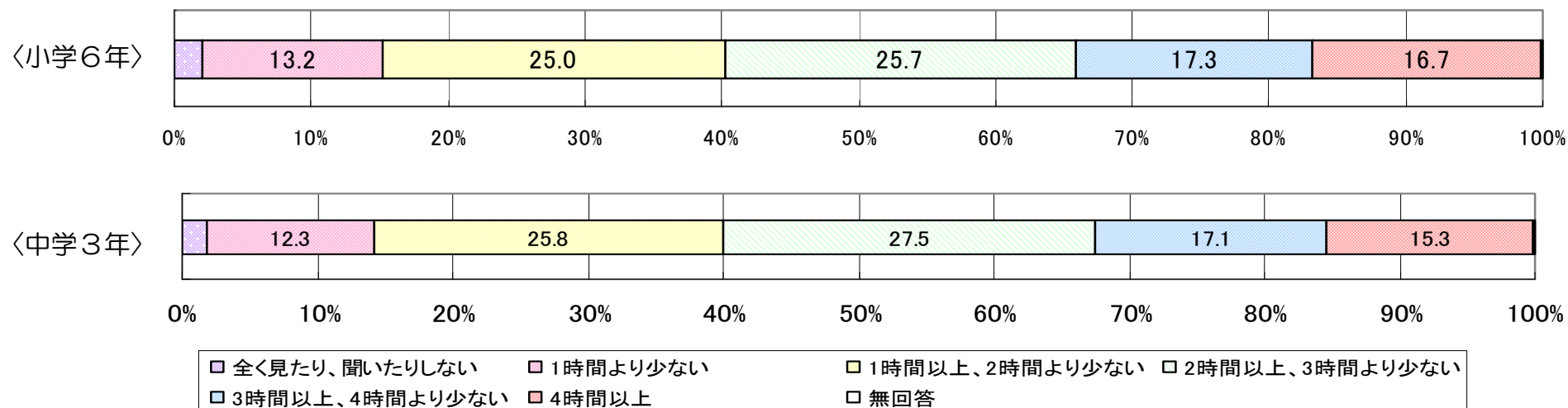
5-8 平日にテレビ、ビデオ、DVDを視聴する時間 (未就学児、小・中学生)

5歳児、小学6年、中学3年のいずれにおいても、約6割の子どもが1日2時間以上テレビ等を見ている。

●ふだんの日にテレビを見る時間



●平日(月～金曜日)に1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりするか

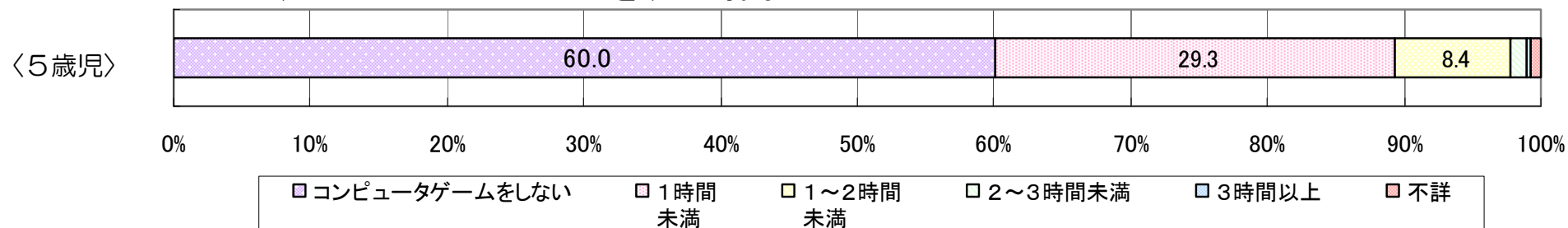


【5-9 ゲーム、インターネット、携帯電話】

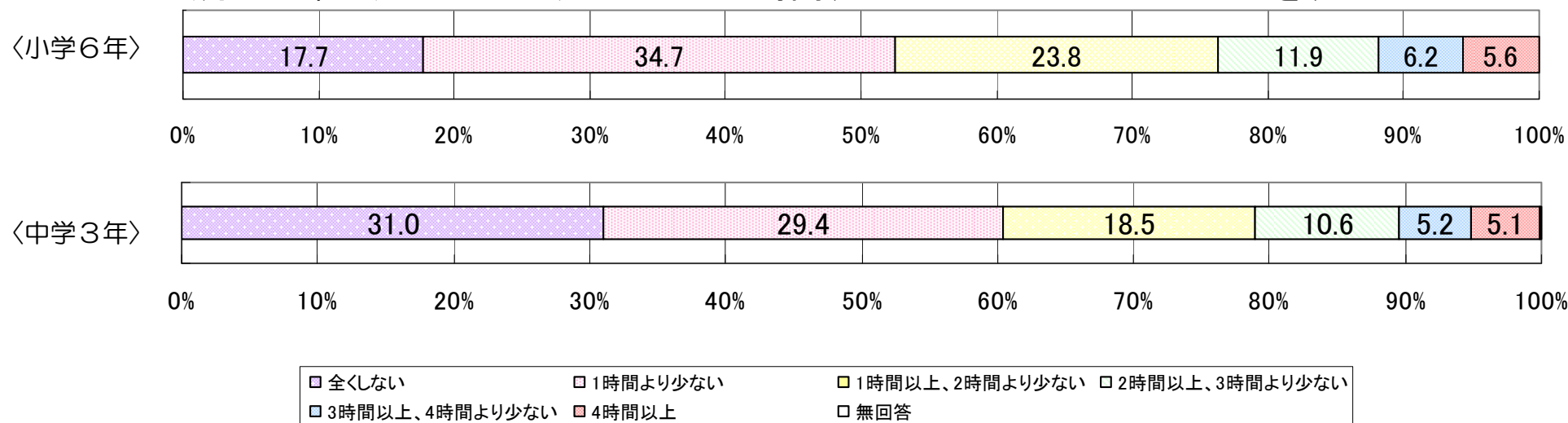
① 平日にテレビゲームをする時間（未就学児、小・中学生）

5歳児の約1割が1日当たり1時間以上コンピューターゲームを、
小6の約5割弱・中3の約4割が、1日当たり1時間以上テレビゲームやインターネットをしている。

●ふだんの日、コンピューターゲームをする時間

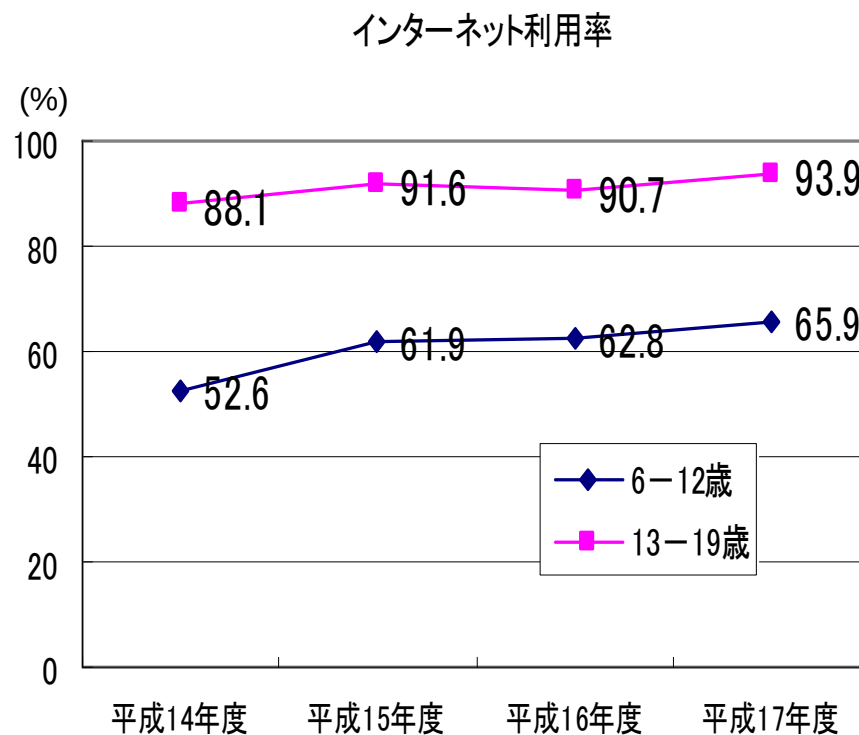


●平日（月～金曜日）に1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームやインターネットをするか

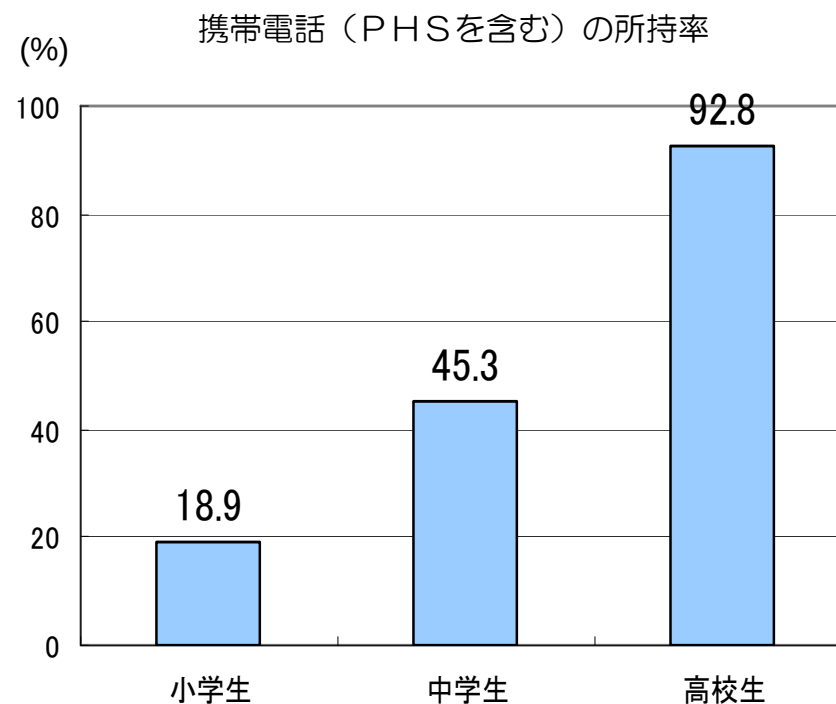


【5-9 ゲーム、インターネット、携帯電話】

② インターネット利用率・ 携帯電話（PHSを含む）の所持率



総務省『通信利用動向調査報告書』（平成18年）



ベネッセ教育研究開発センター
『第1回子どもの生活実態基本調査』（平成17年）

【5-9 ゲーム、インターネット、携帯電話】

③ 携帯電話の利用状況 (少年一般・非行少年)

○ 1日にメールをする回数(平均)

中学男子		中学女子		高校男子		高校女子	
一般	非行	一般	非行	一般	非行	一般	非行
34.23回	41.34回	36.79回	49.64回	25.86回	40.09回	30.32回	43.52回

一般； 全国6府県から中学・高校各3校の各3クラスを選定し、当該クラスの生徒全員を対象に調査

非行； 全国の警察が検挙した犯罪少年のうち、中2又は高3の者を対象に調査

○ 携帯電話への依存

(%)

		携帯電話がないと落ち着かない				携帯電話を持っていないと仲間とのつき合いがうまくいかない				メールのやりとりを終わらせることができず、延々と続いてしまうことがある※				人と顔を合わせてコミュニケーションをとるのが面倒なことがある※			
		中学		高校		中学		高校		中学		高校		中学		高校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
割合	一般	31.6	54.0	45.2	63.0	17.5	19.7	26.9	36.3	51.9 (17.3)	64.8 (31.2)	57.8 (17.0)	72.4 (23.2)	16.6 (5.7)	12.7 (2.7)	20.2 (4.7)	20.0 (2.6)
	非行	57.7	84.7	67.3	80.6	41.8	48.3	50.2	58.1	58.8 (22.7)	72.9 (33.9)	64.0 (21.7)	69.1 (30.9)	30.4 (6.7)	37.9 (11.8)	26.2 (6.0)	27.6 (8.1)

※ 割合は「よくある」及び「ときどきある」を合計した割合。
()は「よくある」のみの割合で内数。

○ 携帯電話の悪用

(%)

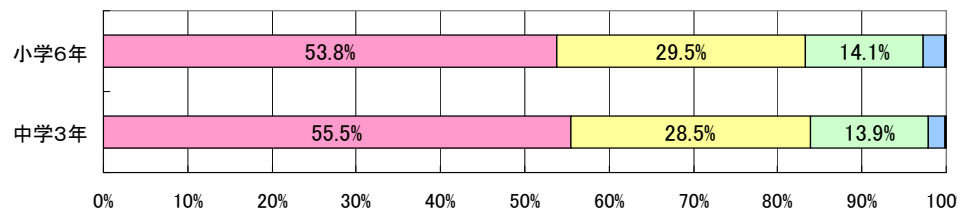
		出会い系サイトを利用したこと※				アダルトサイトに接続したこと				授業中にメールを利用したこと			
		中学		高校		中学		高校		中学		高校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
割合	一般	5.7 (3.1)	15.6 (1.9)	21.2 (3.1)	21.2 (1.4)	8.4	4.8	31.4	5.6	13.9	16.3	72.2	71.6
	非行	15.4 (1.5)	43.7 (6.7)	34.6 (5.2)	33.8 (5.6)	15.0	11.0	23.5	7.3	47.4	58.0	82.8	78.0

警察庁 青少年の意識・行動と携帯電話に関する調査研究報告書(平成16年5月)

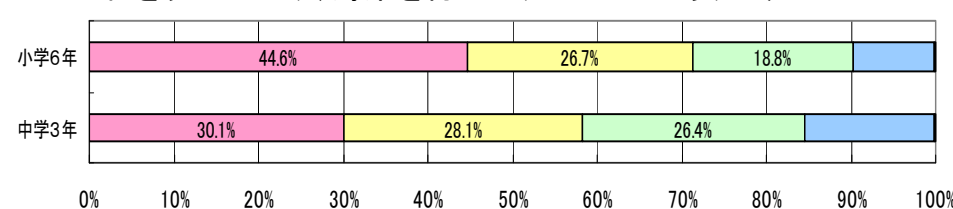
5-10 自然体験・奉仕体験、生活体験の有無 (小・中学生)

体の不自由なお年寄りや困っている人の手助けをした体験が「何度もある」又は「時々ある」子どもの割合は、約4割にとどまっている。

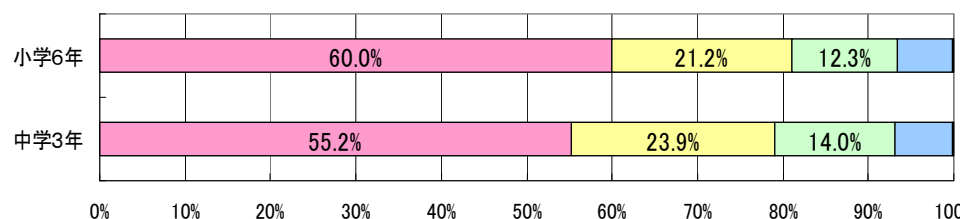
海、山、湖などで遊んだことがありますか



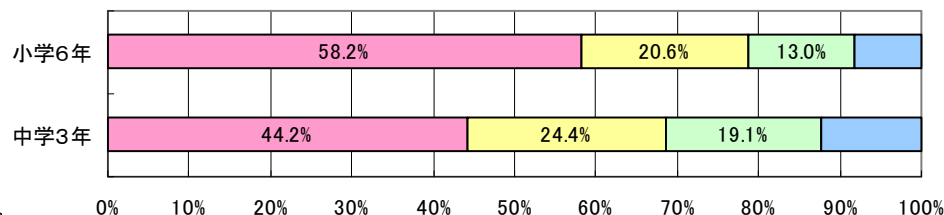
花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか



生き物を飼育したことがありますか



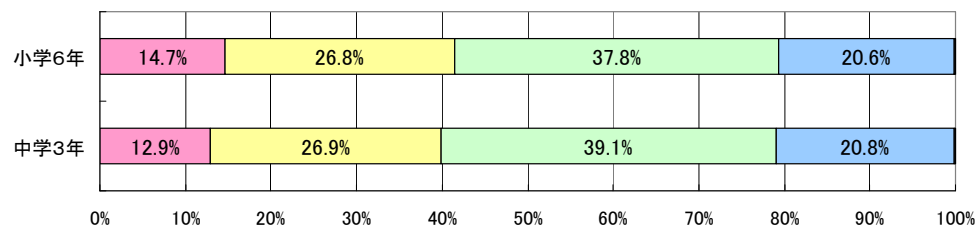
小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがありますか



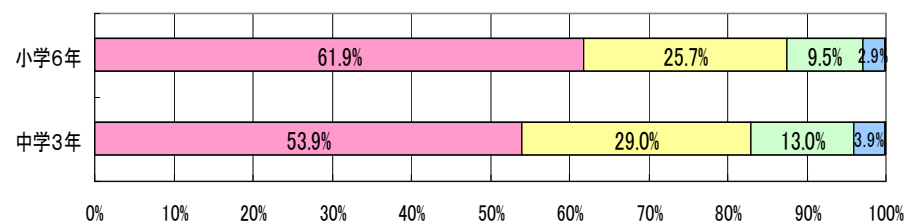
文部科学省『平成19年度 全国学力・学習状況調査』

■ 何度もある ■ 時々ある ■ あまりない ■ 全くない □ その他

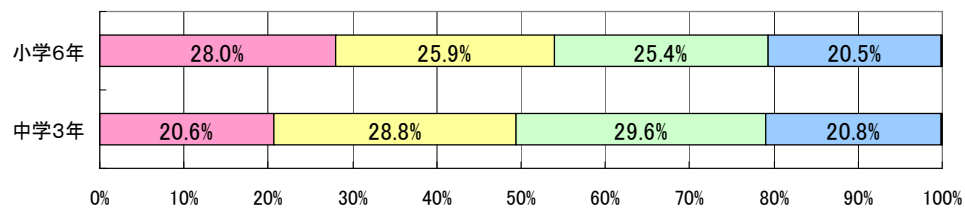
体の不自由なお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか



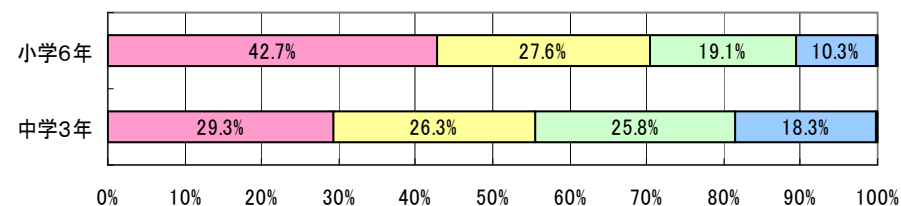
包丁やナイフを使って調理したことがありますか



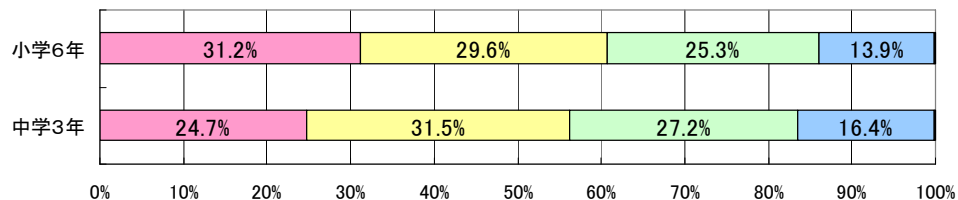
清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか



編み物や裁縫をしたことがありますか



木材を使ったものづくりをしたことがありますか

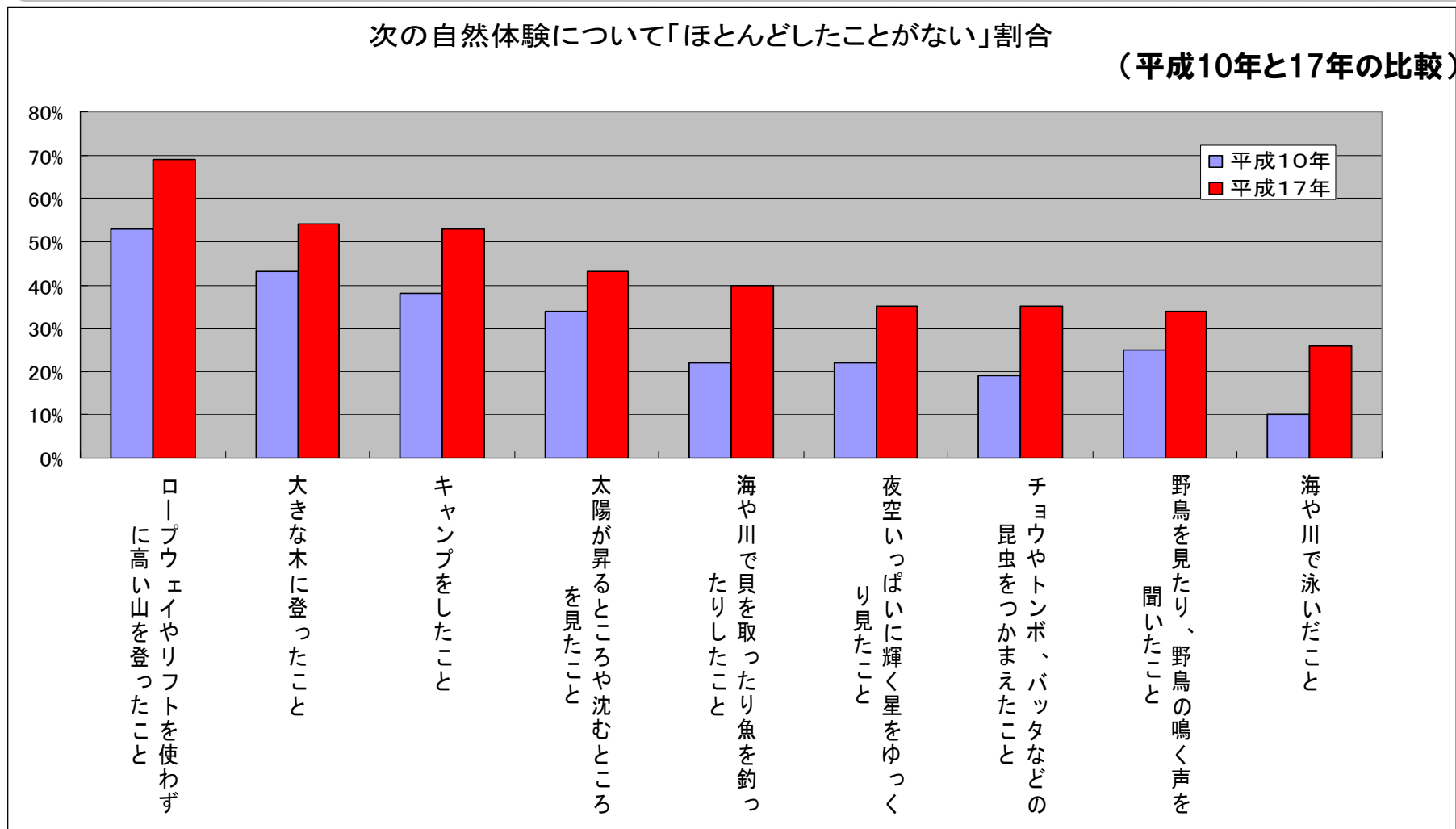


■ 何度もある
 ■ 時々ある
 ■ あまりない
 ■ 全くない
 □ その他

【5-11 自然体験の状況】

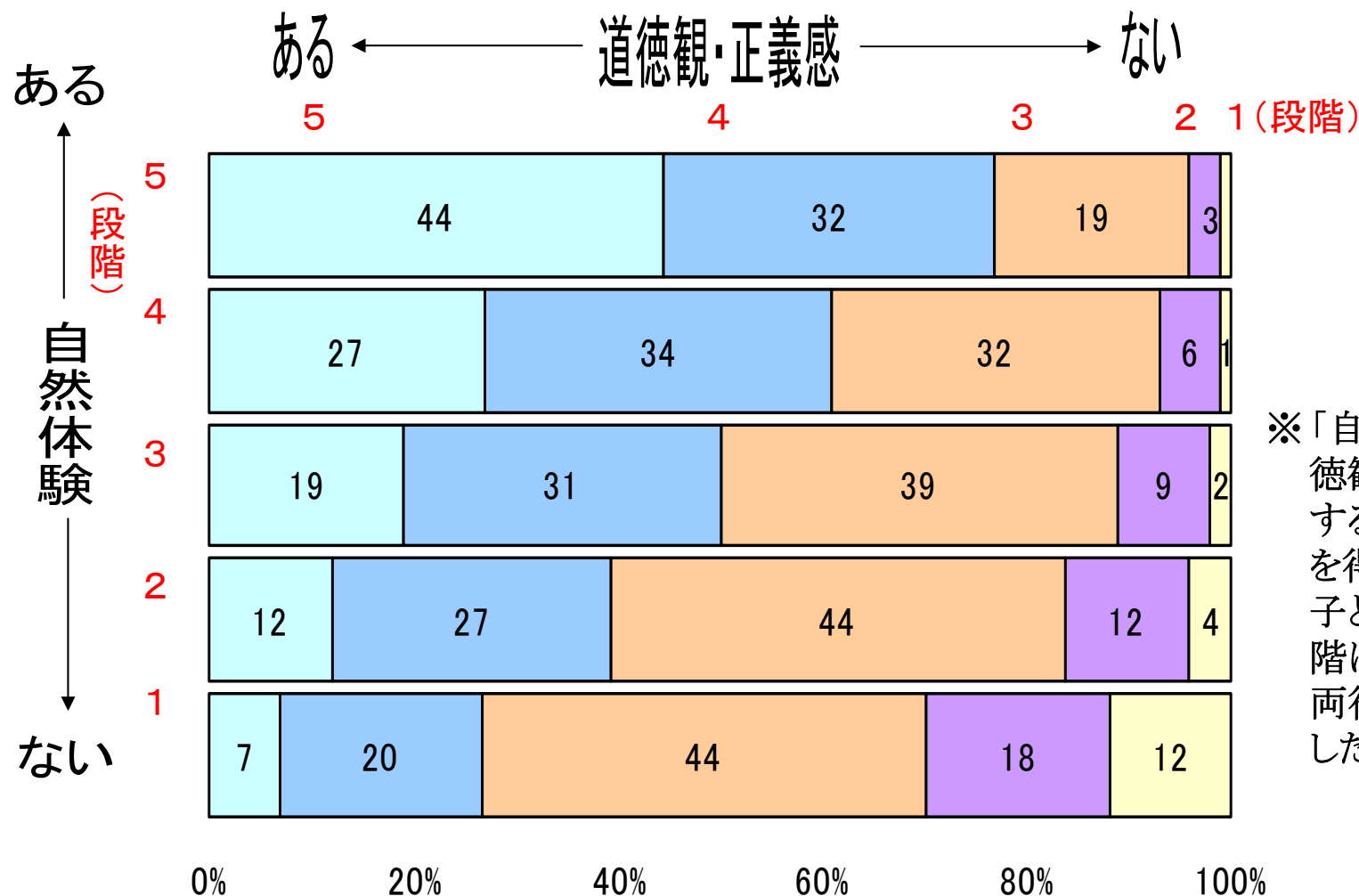
① 自然体験について「ほとんどしたことがない」割合

身近な自然体験を含め、自然の中で活動する体験の機会が減少している。



② 自然体験と道徳観・正義感の関係

自然体験の多い小中学生には道徳感、正義感の身に付いている者が多い。



※「自然体験」と「道徳観・正義感」に関する質問への回答を得点化し、各々の子どもの得点を5段階に区分した上で、両得点をクロス集計した。

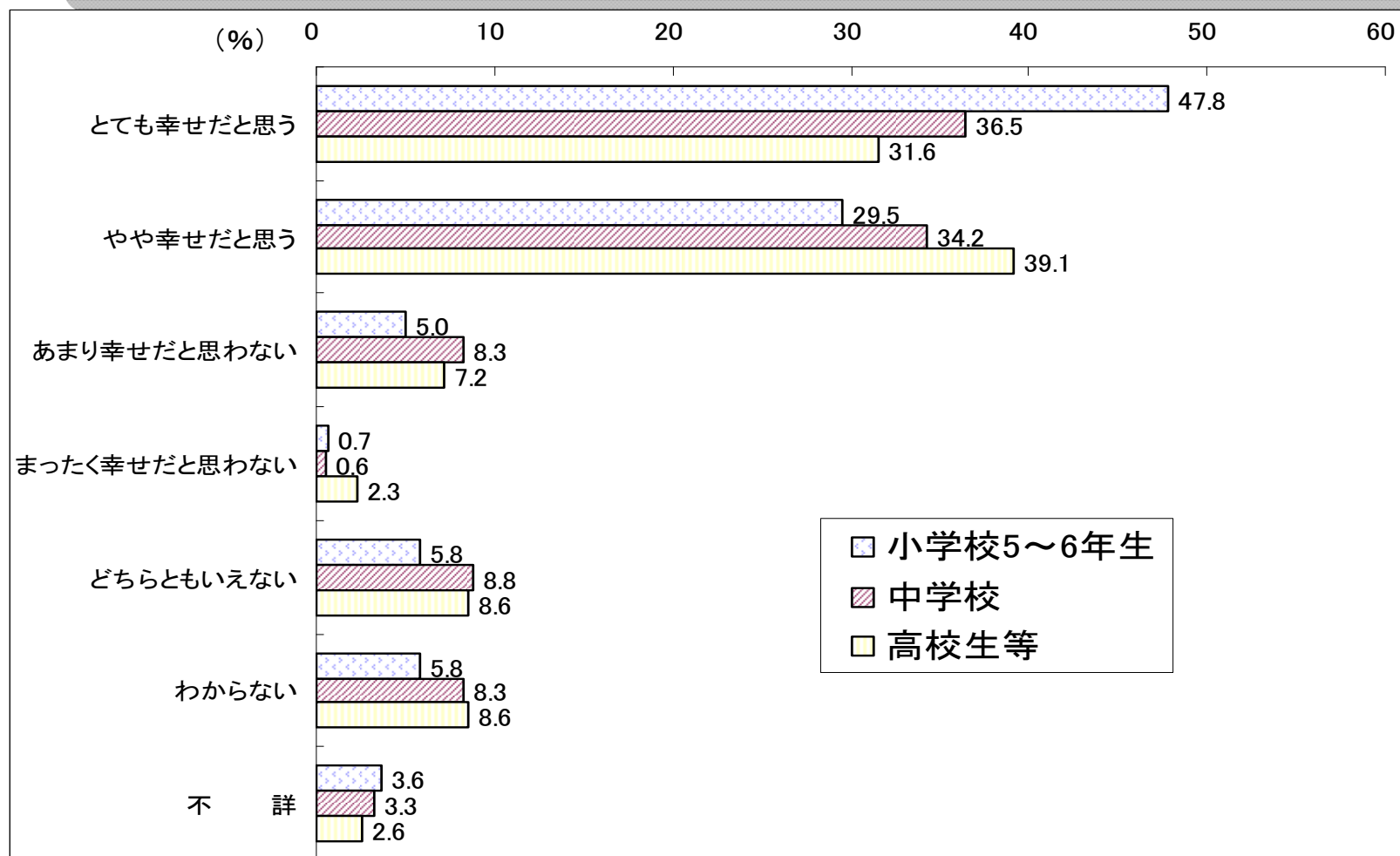
独立行政法人国立青少年教育振興機構

『『青少年の自然体験活動等に関する実態調査』報告書 平成17年度調査』より作成

【5-12 自己評価・自己肯定感】

① 幸せ感の状況

7割以上の子どもが幸せであると感じているのに対し、「あまり幸せだと思わない」又は「まったく幸せだと思わない」とする子どもも約1割弱いる。



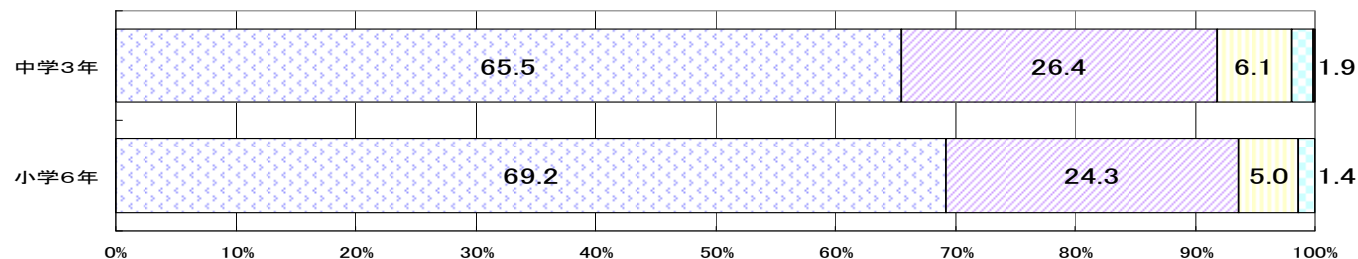
注) 「高校生等」とは「高校」、「各種学校・専修学校・職業訓練校」の合計である。

資料: 厚生労働省 平成16年度全国家庭児童調査

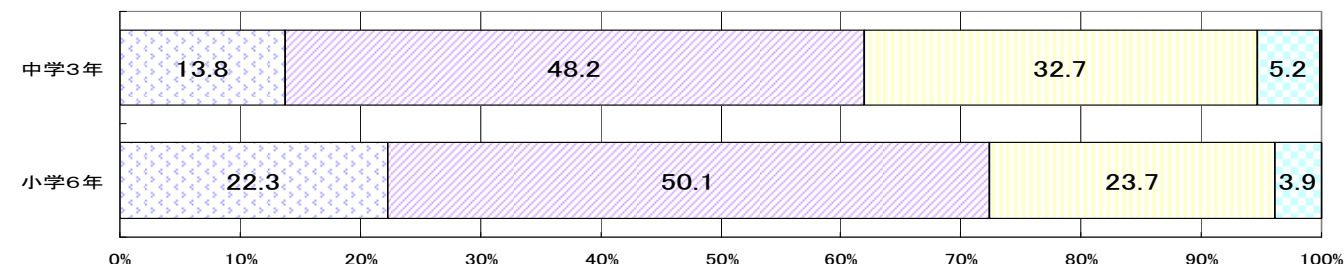
② 自己肯定感につながる経験・意識の状況（小・中学生）

「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「自分にはよいところがある」とする子どもの割合は、小学生より中学生で少なくなっている。

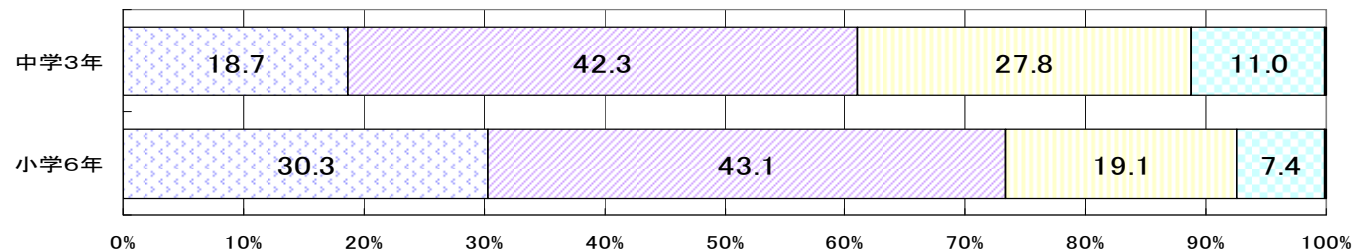
ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



自分には、よいところがあると思いますか



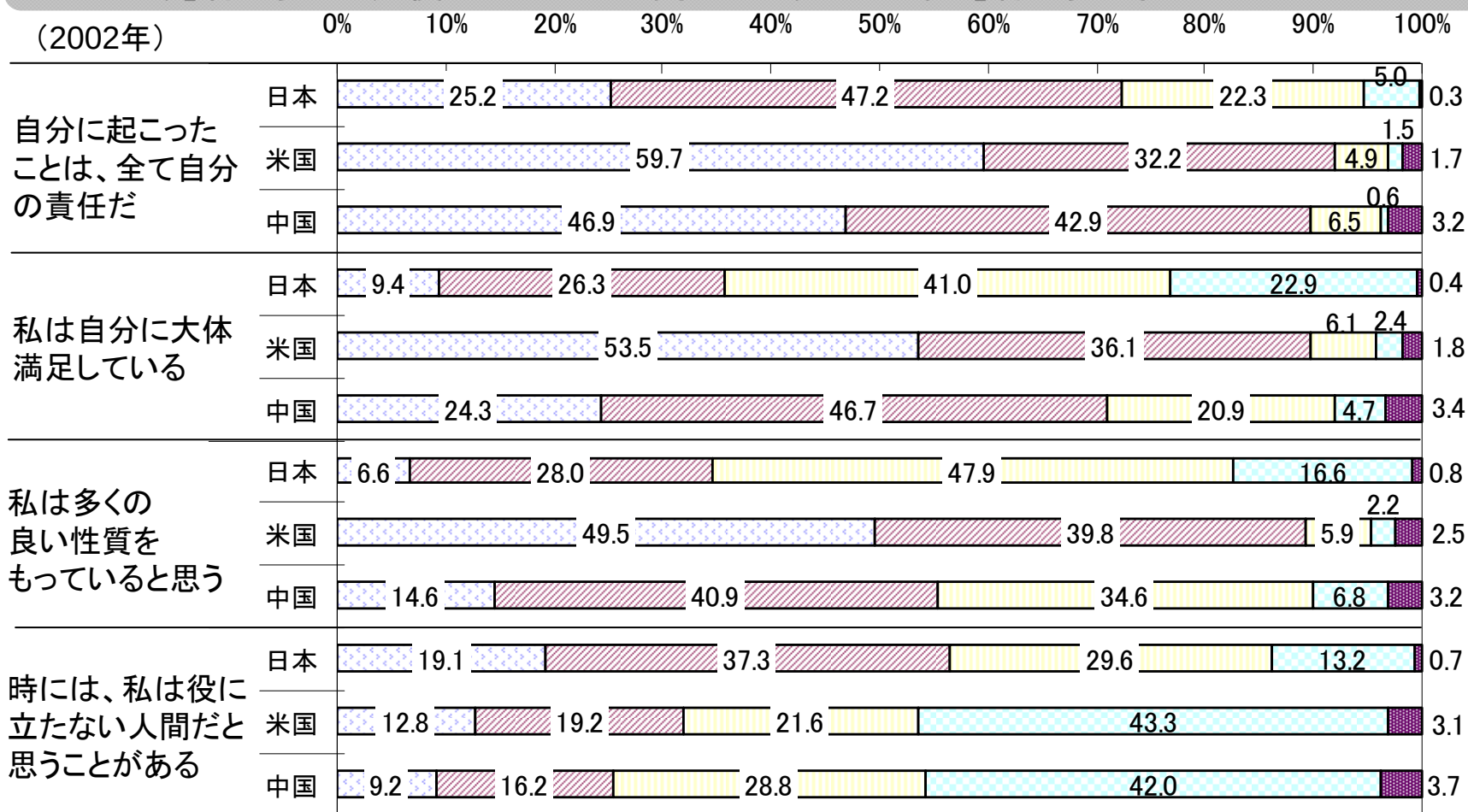
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他
 無回答

資料：文部科学省 平成20年度全国学力・学習状況調査

【5-12 自己評価・自己肯定感】

③ 自己に対する認識（国際比較）

米・中に比べ、日本の中学生は、自分について「大体満足している」、「多くの良い性質を持っていると思う」者が少なく、「役に立たない人間だと思うことがある」者が多い。



□ よく当てはまる ■ ややあてはまる □ あまりあてはまらない □ 全然あてはまらない ■ 無回答

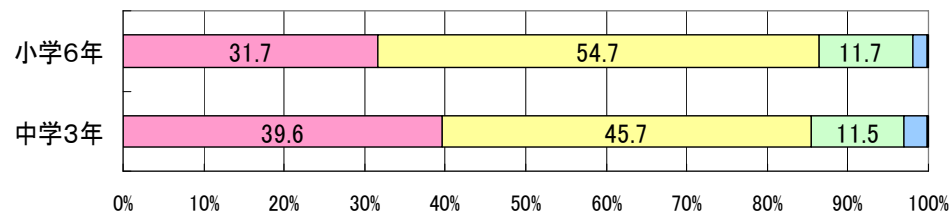
資料：日本青少年研究所 中学生の生活意識に関する調査（平成14年）より

【5-13 規範意識】

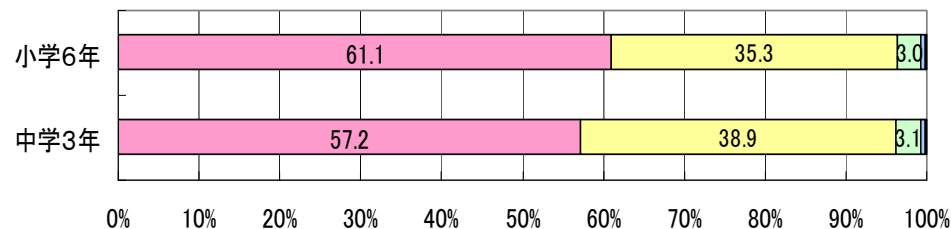
① 規範意識にかかわる意識・行動の状況（小・中学生）

「友達との約束を守っている」に当てはまるとする児童生徒が約6割であるのに対し、「学校のきまりを守っている」では3～4割、「人が困っているときに進んで助けている」は2割前後であった。

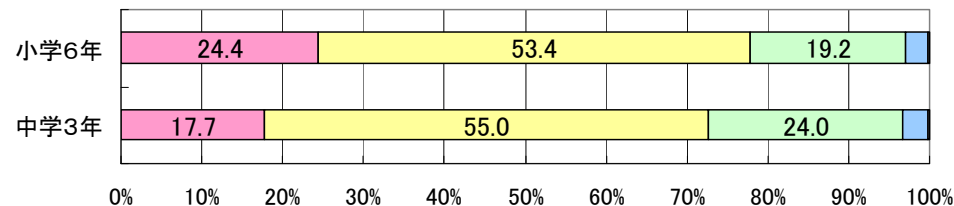
学校のきまりを守っていますか



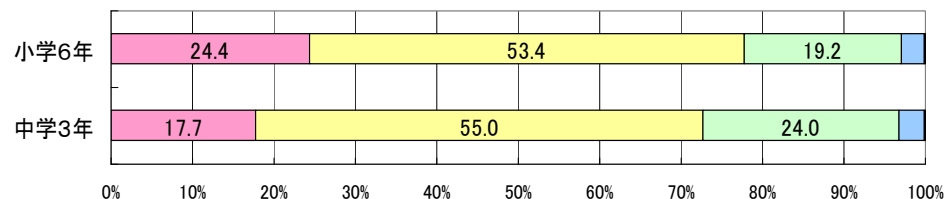
友達との約束を守っていますか



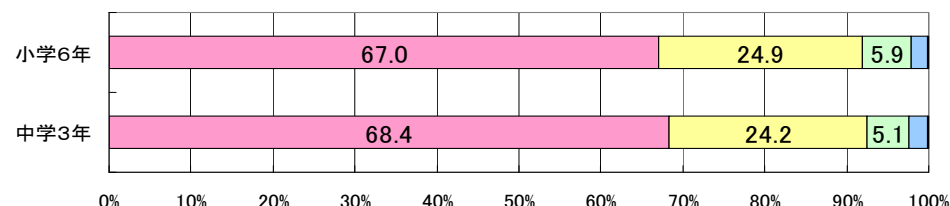
人が困っているときは、進んで助けていますか



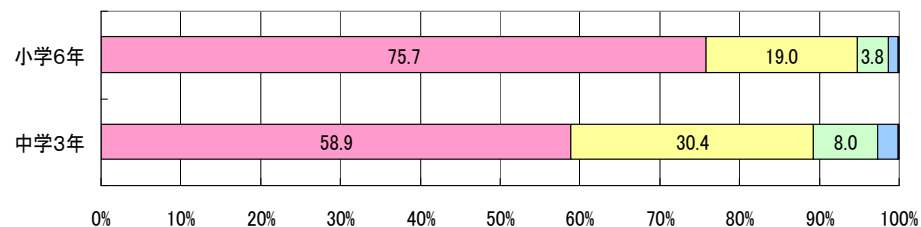
近所の人に会ったときは、あいさつしていますか



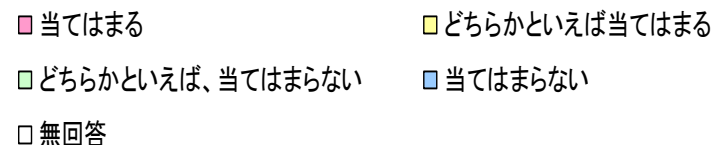
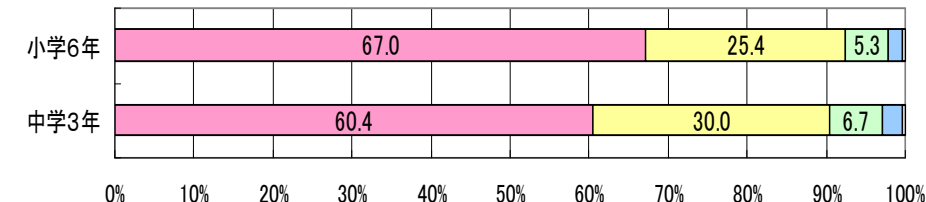
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか



文部科学省『平成20年度 全国学力・学習状況調査』

【5-13 規範意識】

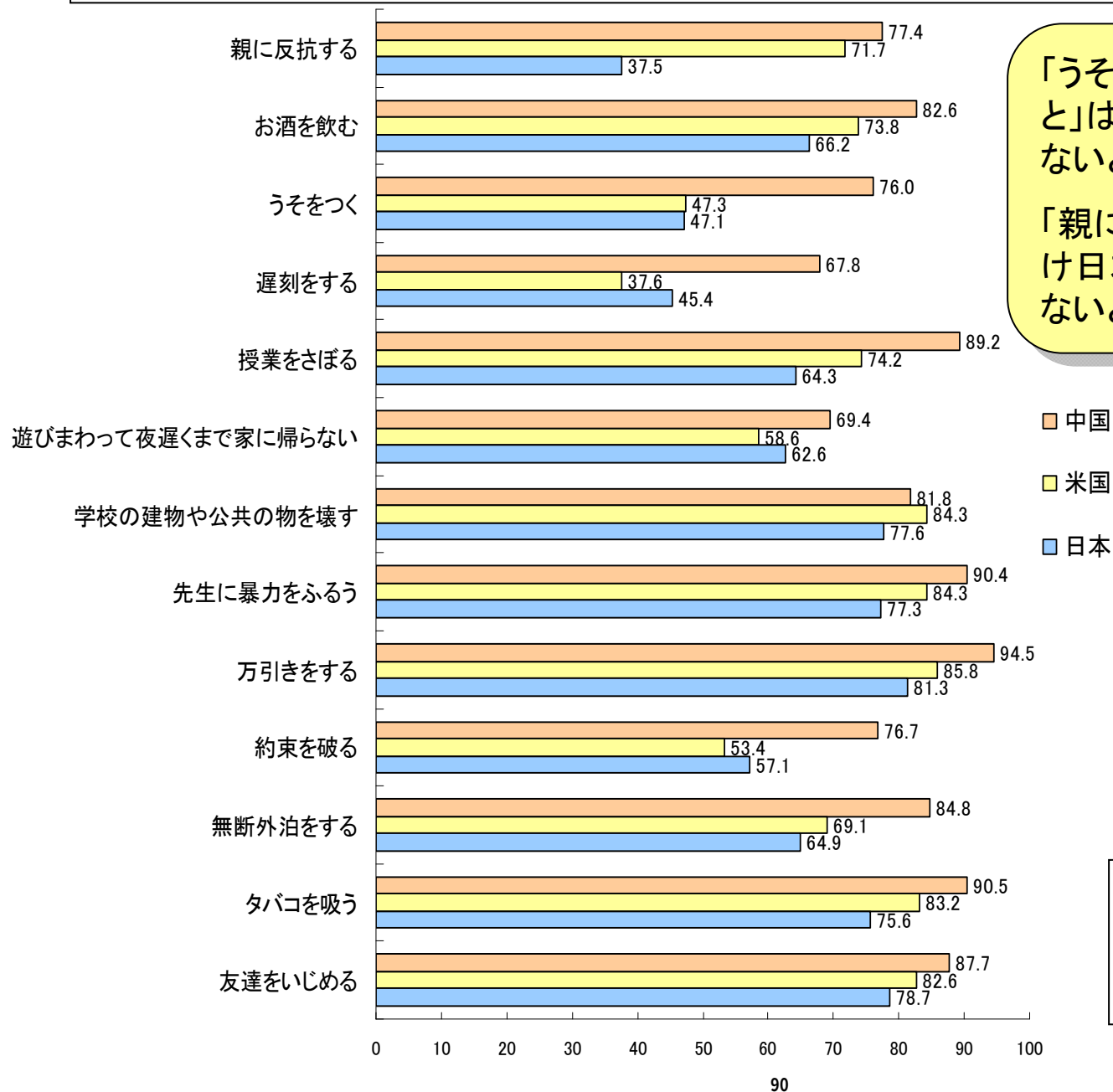
② どういう行動をとるか（中学生）

学校・社会・家庭内の規範等への同調的な行動を選ぶ割合は、中1より中3で小さくなっている。
（友人間の関係では、同調が高まる一面も見られる。）

どういう行動をとるか		全体	男女別		学年別 (％)		
			男子	女子	中1	中2	中3
このままでは学校に遅刻する	間に合うよう走る	84.9	82.3	87.6	89.5	82.4	82.9
	間に合わなくてもいいと思う	15.1	17.7	12.4	10.5	17.6	17.1
先生に遅刻を注意された	以後気をつけようと思う	71.6	71.9	71.2	71.2	74.8	68.9
	心の中では、うるさいと思う	28.4	28.1	28.8	28.8	25.2	31.1
クラスのいじめに気づいた	いじめをやめさせようとする	45.2	44.5	45.8	50.9	45.3	39.7
	そのまま見ないふりをする	54.8	55.5	54.2	49.1	54.7	60.3
道端を歩いているとき、千円を拾った	きちんと届け出る	35.9	28.0	44.1	41.7	39.9	26.8
	もらってしまう	64.1	72.0	55.9	58.3	60.1	73.2
突然の大雨で、持ち主のわからないカサがあった	そのカサは使わない	78.6	74.8	82.6	86.8	77.0	72.6
	そのカサを使う	21.4	25.2	17.4	13.2	23.0	27.4
友だちがテストで、あなたよりいい点数を取った	よかったと喜ぶ	25.0	25.5	24.4	28.4	23.2	23.4
	くやしいと思う	75.0	74.5	75.6	71.6	76.8	76.6
観たくない映画に「一緒に行こう」と誘われた	一緒に観に行く	47.5	51.2	43.7	46.9	45.9	49.5
	行くのを断る	52.5	48.8	56.3	53.1	54.1	50.5
見たいテレビがあるが、見ると明日までの宿題が終わりそうにない	宿題をやる	51.2	47.6	55.1	56.8	52.2	45.3
	テレビを見る	48.8	52.4	44.9	43.2	47.8	54.7
親から「勉強しなさい」と言われた	すぐに勉強をする	47.9	47.2	48.6	59.9	50.1	34.8
	勉強をするふりだけする	52.1	52.8	51.4	40.1	49.9	65.2
必要はないが、流行しているバッグが欲しいとき、親は買ってあげるべきか	買う必要はないと思う	72.0	77.5	66.3	70.8	76.0	69.6
	あなたに買ってあげるべきと思う	28.0	22.5	33.7	29.2	24.0	30.4

『モノグラフ 中学生の世界 vol.76（平成15年）』
ベネッセ教育研究所

③ してはいけないと思うこと(国際比較)



「うそをつくこと」、「遅刻すること」は、日米ともに、してはいけないとする割合が低く、

「親に反抗すること」は、とりわけ日本において、してはいけないとする割合が低い。

中学生の生活と意識に関する調査報告書
一日米中の3カ国の比較(平成14年10月)
(財)一ツ橋文芸教育振興会、
(財)日本青少年研究所

【5-14 価値観】

① 大切なことと思うこと

大切と思う割合は、男子は「健康であること」が最も多く、次が「友達がたくさんいること」、女子では「友達がたくさんいること」が最も多く、次が「健康であること」となっている。

〈単位：％〉

大 切 な こ と	平成16年					
	総数	男	女	小学校 5～6年生	中学生	高校生等
健康であること	60.6	62.8	58.4	64.0	59.8	58.9
友達がたくさんいること	59.8	58.2	61.4	64.7	56.7	60.2
将来に夢を持っていること	48.1	43.5	52.9	47.1	45.6	53.3
勇気を持っていること	34.3	28.0	40.9	38.1	35.4	29.3
運動や歌などで、何か得意なもの (特技)があること	32.0	35.0	28.9	29.5	33.1	32.6
勉強ができること	21.5	25.0	17.9	27.0	24.0	12.8
お金がたくさんあること	16.9	19.7	14.1	10.8	16.5	22.7
いろんなことを知っていること	12.6	15.3	9.9	9.0	12.7	15.8
人の嫌がることをすすんでやること	8.0	7.0	9.1	6.1	9.6	7.6
不詳	6.1	5.5	6.7	3.6	6.7	6.9

注) 「高校生等」は「高校生」、「各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒」の合計である。

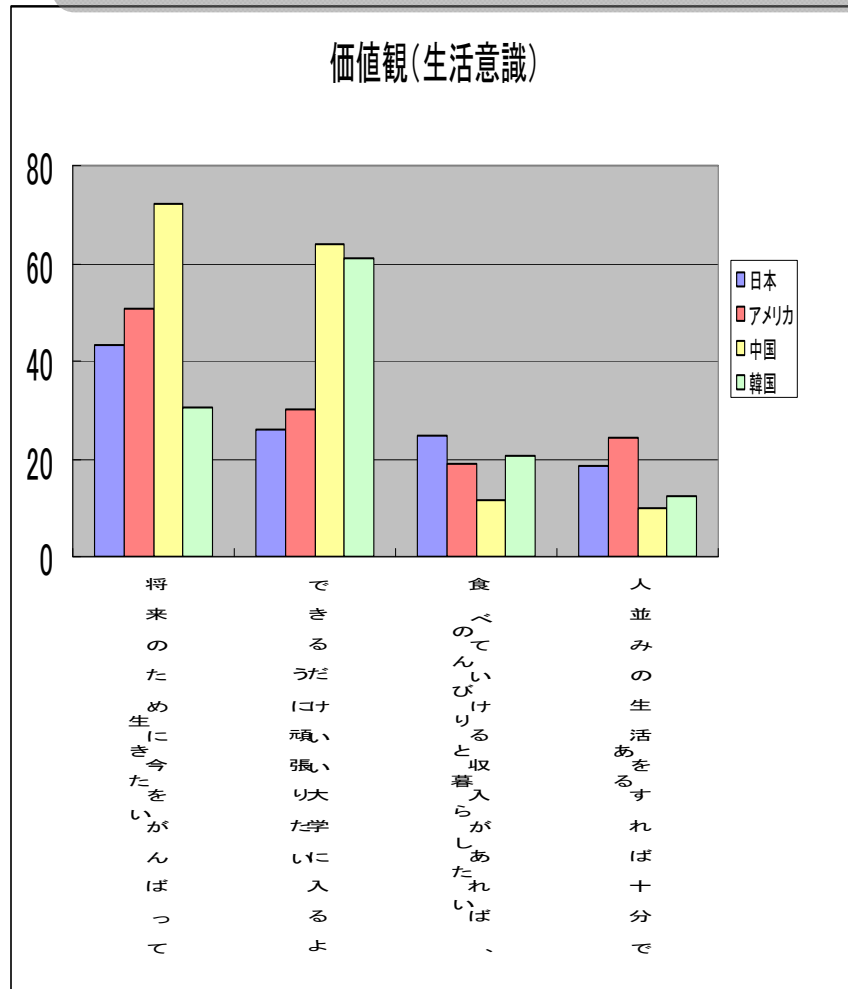
※ 赤字は、「総数」における順位(割合の多い順)と、
男女別・学校段階別の順位とが、異なるところ。

(厚生労働省) 平成16年度全国家庭児童調査

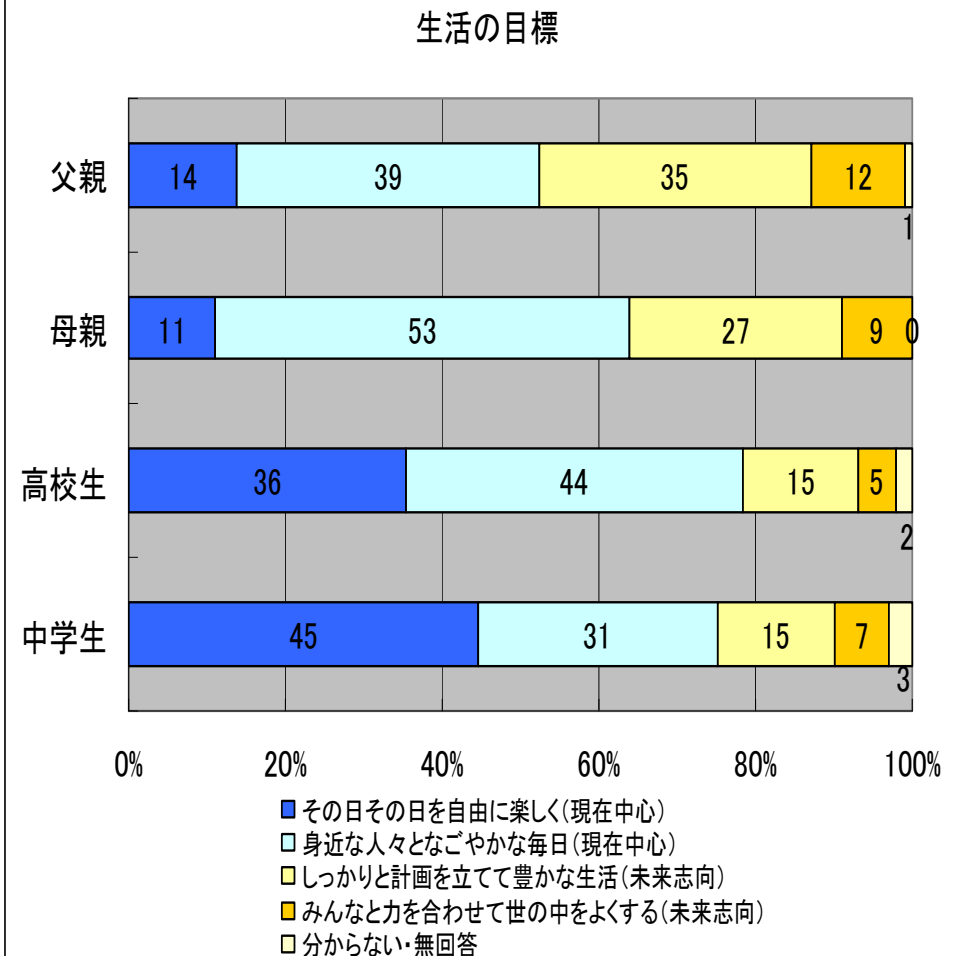
【5-14 価値観】

② 生活意識・生活の目標

日本の中高生は、諸外国と比較して将来志向の生活意識を持つ者が少なく、親世代と比較して将来よりも今の生活を重視する者が多い。



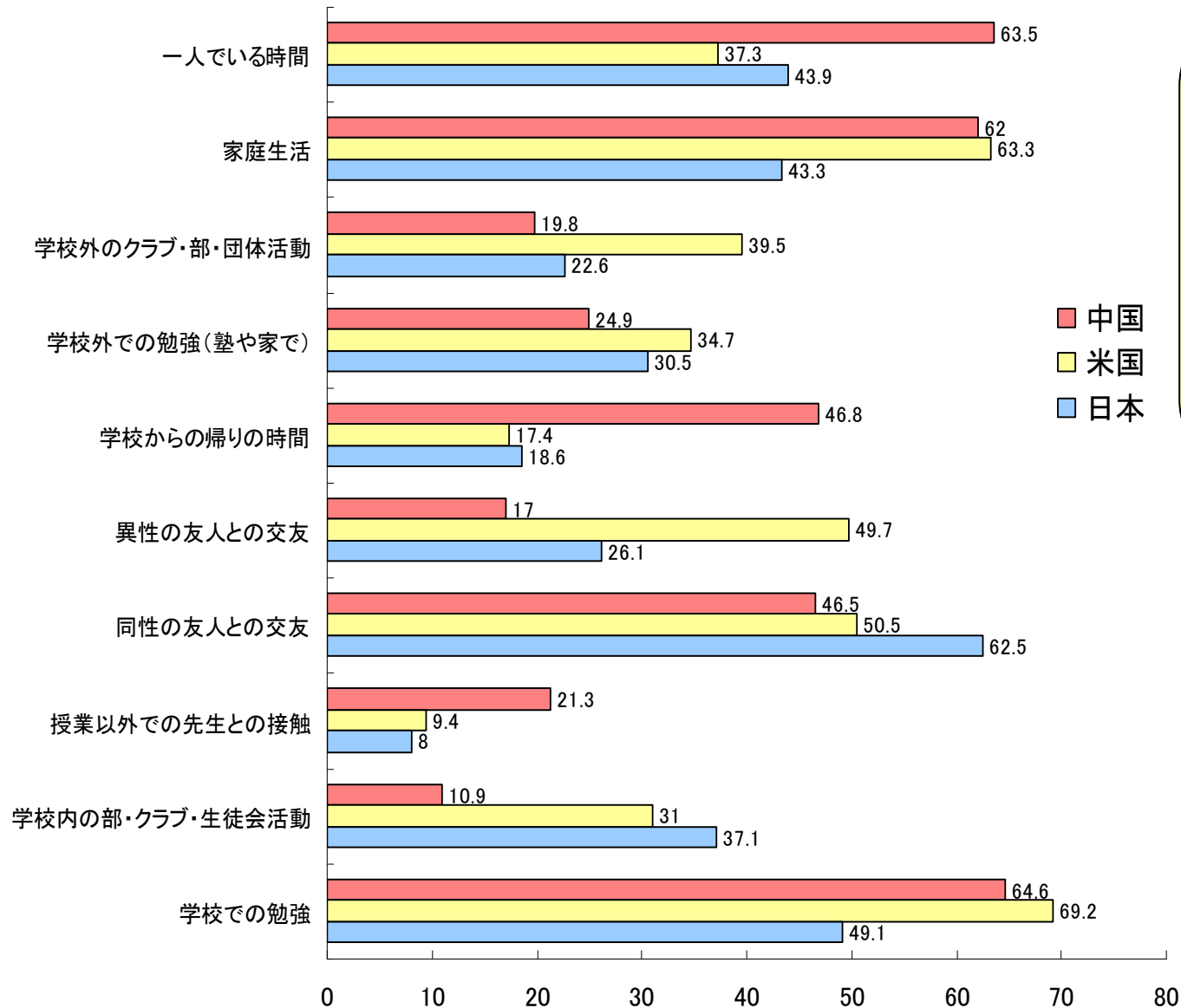
(財)一ツ橋文芸教育振興会、(財)日本青少年研究所
『高校生の友人関係と生活意識調査報告書』(平成18年)



NHK放送文化研究所
『中学生・高校生の生活と意識調査』(平成15年)

【5-14 価値観】

③ 生活の中で重要なこと（国際比較）



米・中の生徒は「学校での勉強」、「家庭生活」等を重要視する者が多いのに対し、

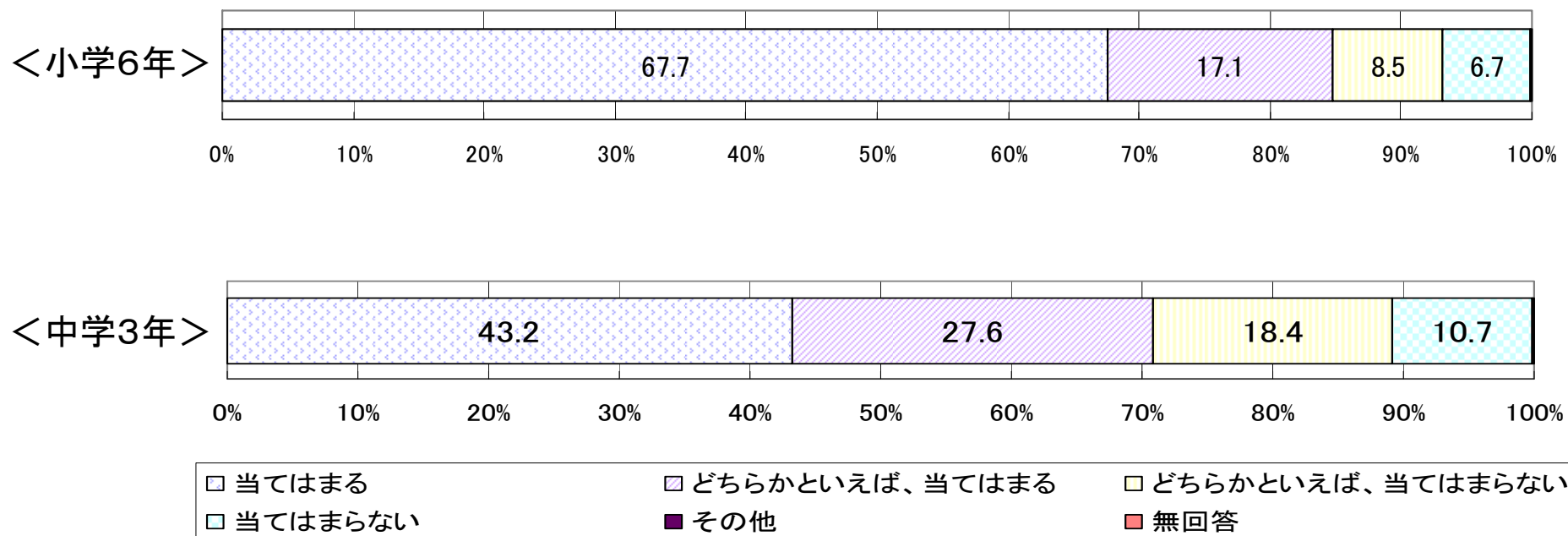
日本の生徒は「同性の友人との交友」を重要視する者が多い。

中学生の生活と意識に関する調査報告書
一日米中の3カ国の比較(平成14年10月)
(財)一ツ橋文芸教育振興会、
(財)日本青少年研究所

【5-15 大人になることへの思い・将来の希望】

① 将来の夢や目標を持っているか（小・中学生）

中学生より小学生の方が、将来の夢や目標をもっている子どもの割合が多い。

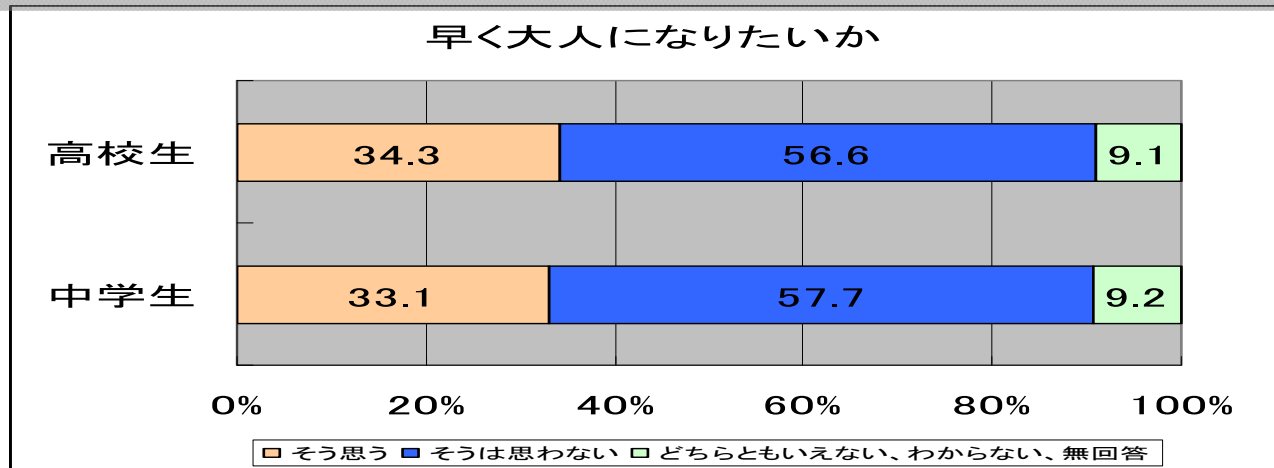


資料: 文部科学省 平成20年度全国学力・学習状況調査

【5-15 大人になることへの思い・将来の希望】

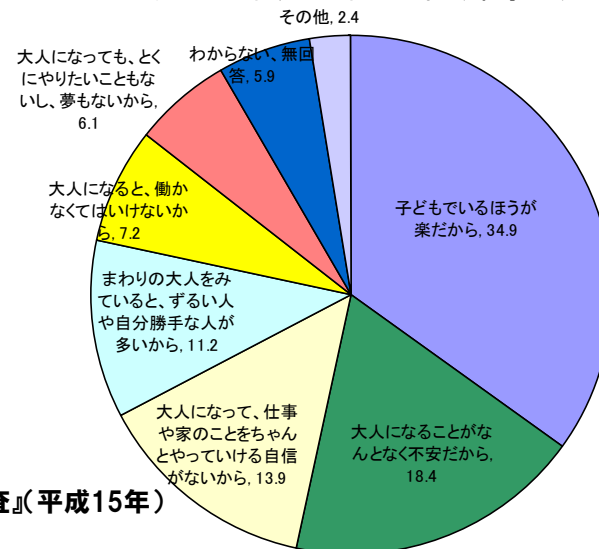
② 早く大人になりたいか／なりたくない理由

中高生の半数以上は早く大人になりたいとは思わず、大人になることへの負担感や不安・自信のなさを感じている。

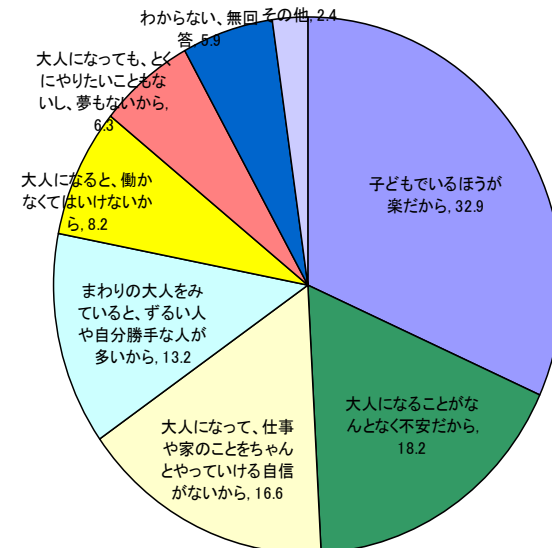


上図で「そうは思わない」と回答した者について

大人になりたくない理由(中学生)



大人になりたくない理由(高校生)



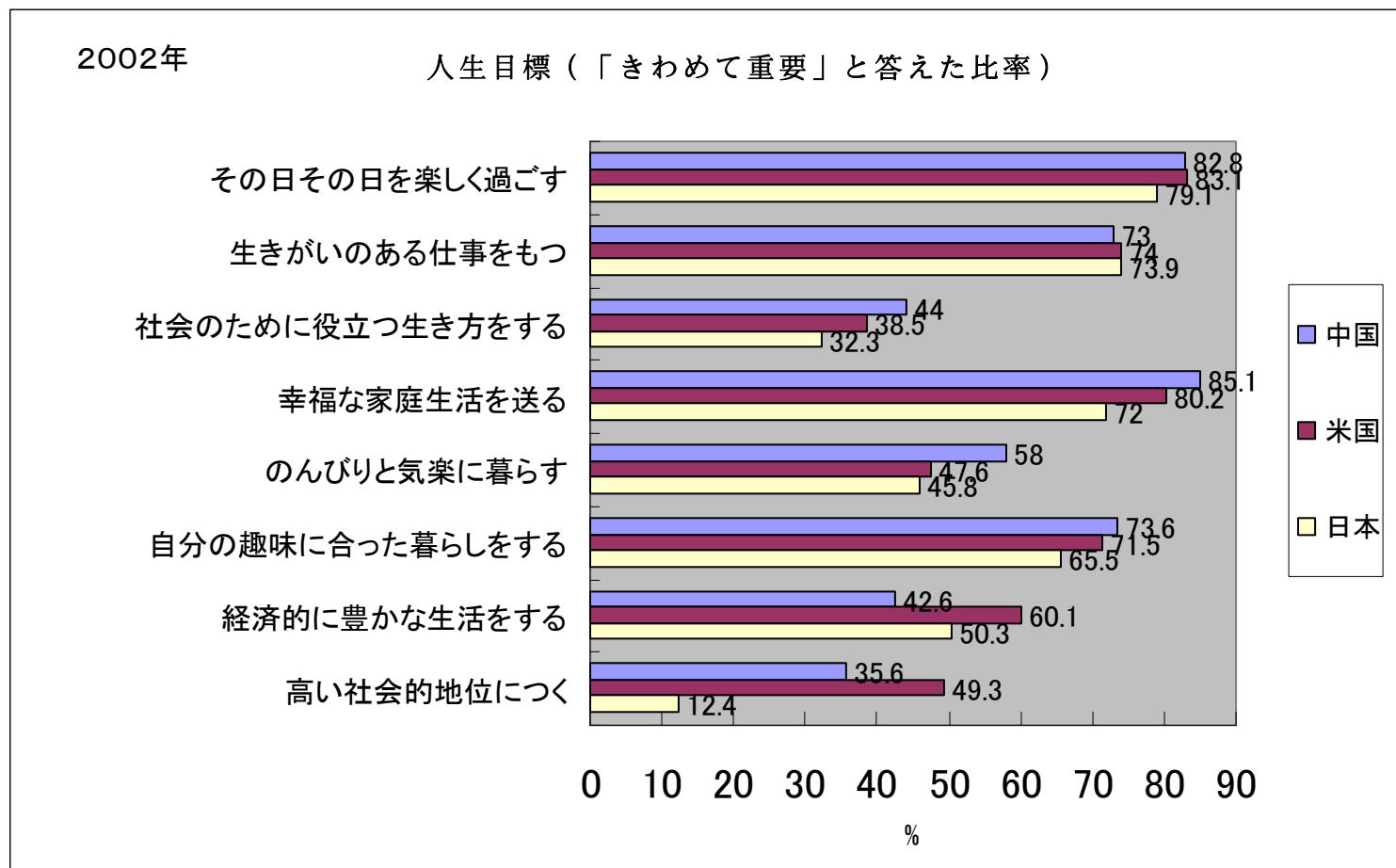
NHK放送文化研究所

『中学生・高校生の生活と意識調査』(平成15年)

【5-15 大人になることへの思い・将来の希望】

③ 人生目標（国際比較）

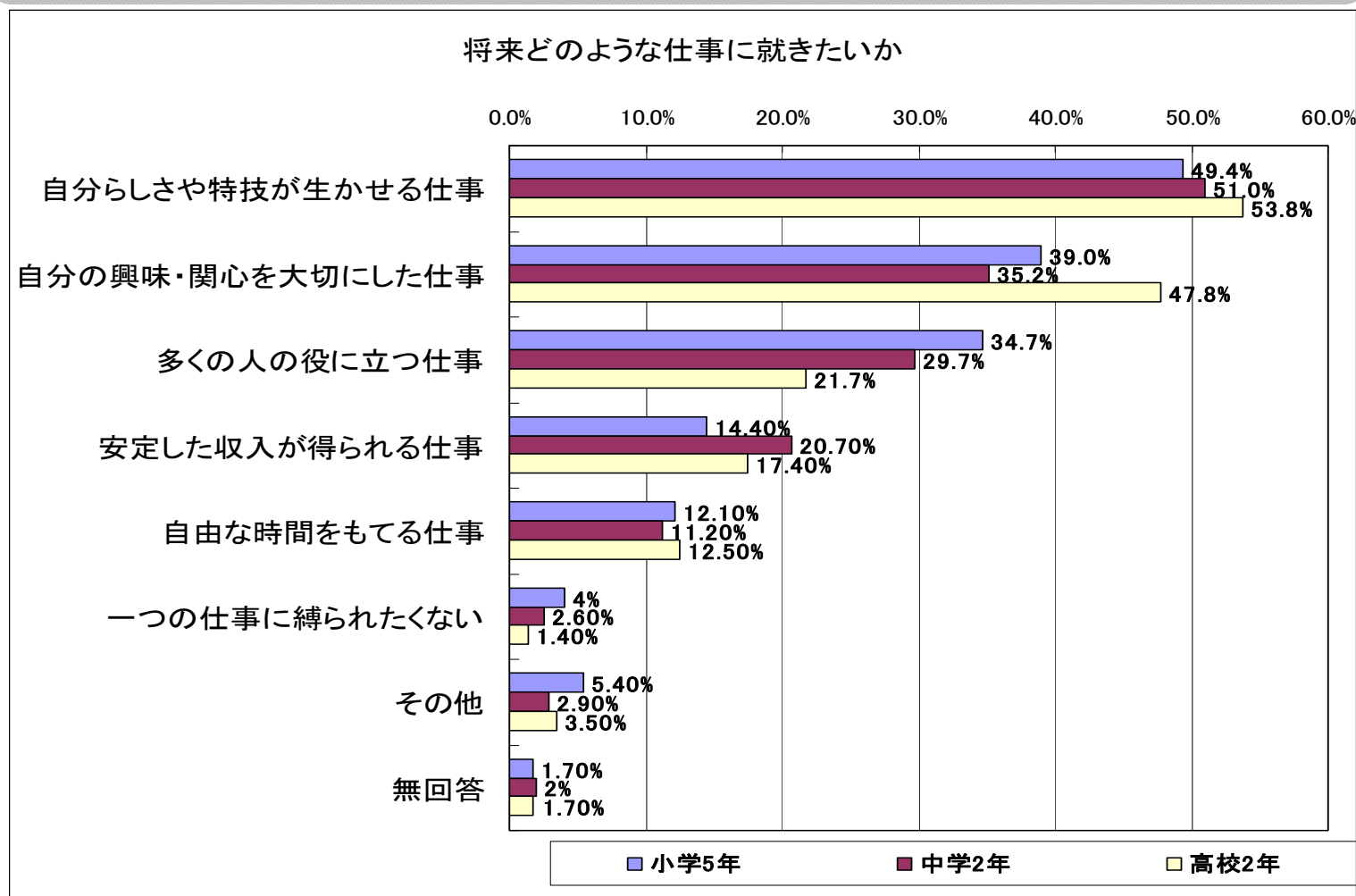
人生目標については、日米中ともに「その日を楽しく過ごす」、「生きがいのある仕事を持つ」、「幸福な家庭生活を送る」ことを重視。



中学生の生活と意識に関する調査報告書—日米中の3カ国の比較（平成14年10月）
（財）一ツ橋文芸教育振興会、（財）日本青少年研究所

④ 将来どのような仕事に就きたいか

小・中・高を通して「自分らしさや特技が生かせる仕事」に就きたいとする者が最も多い。

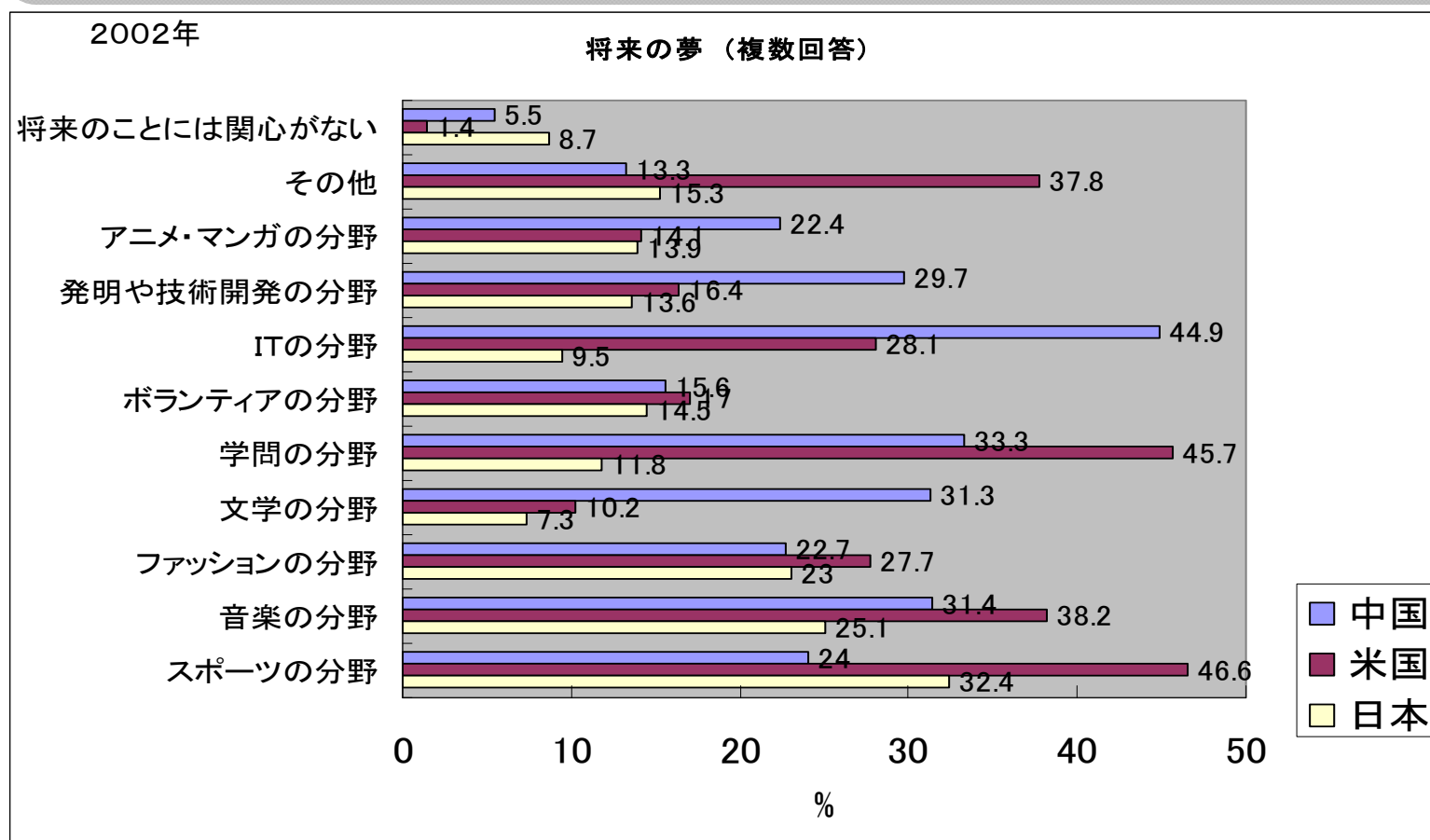


東京の教育に関する都民意識調査(平成15年6月東京都教育庁)

【5-15 大人になることへの思い・将来の希望】

⑤ 将来の夢 （国際比較）

将来、情熱を注いでやってみたいことについて、
 日本の中学生では、「スポーツ」、「音楽」、「ファッション」の分野が多いのに対し、
 米国では、「スポーツ」、「学問」の分野が、
 中国では、「IT」、「学問」、「文学」の分野が多い。



中学生の生活と意識に関する調査報告書―日米中の3カ国の比較（平成14年10月）
 （財）一ツ橋文芸教育振興会、（財）日本青少年研究所

6 その他

6-1 刑法犯少年・触法少年の推移

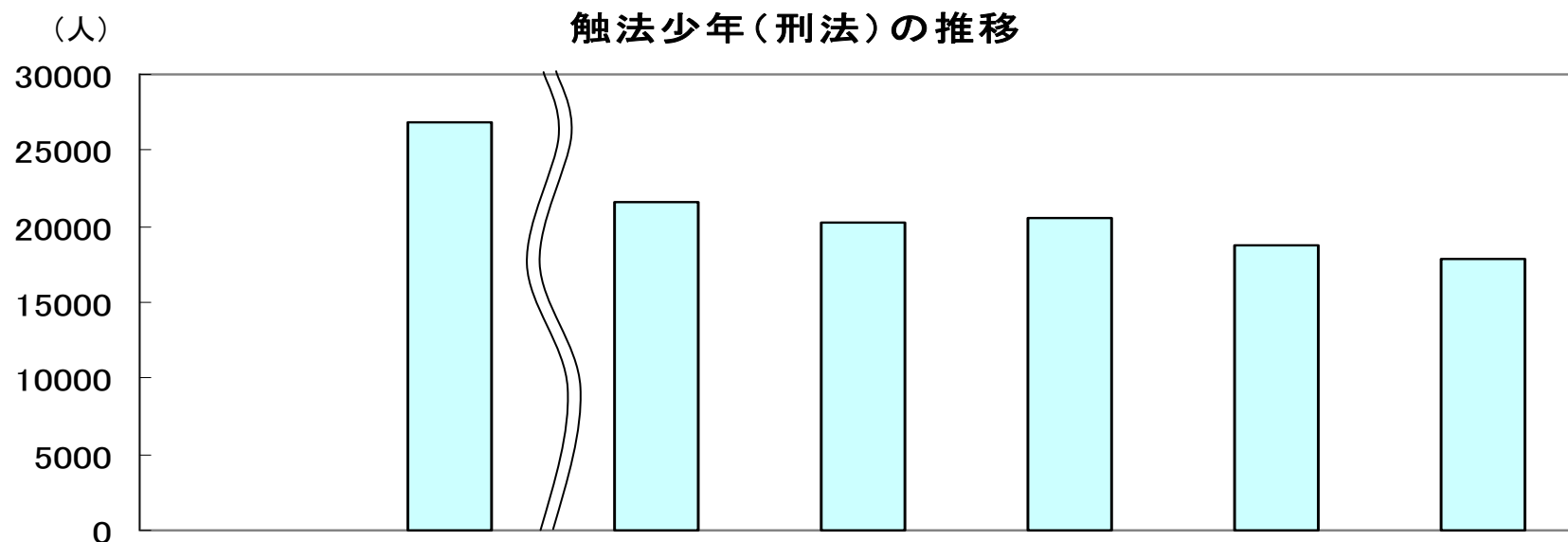
刑法犯罪少年の検挙人員の数は平成16年以降4年連続で減少。
(この10年では約1/3の減)



注) 「刑法犯罪少年」; 刑法等に規定する罪を犯した14歳以上20歳未満の者

資料: 警察庁「少年非行等の概要」(平成19年)

触法少年の補導人員の数は平成18年以降2年連続の減少。
(この10年では約1／3の減)



年次	10年	15年	16年	17年	18年	19年
総数(人)	26,905	21,539	20,191	20,519	18,787	17,904
凶悪犯	182	212	219	202	225	171
粗暴犯	1,455	1,467	1,301	1,624	1,467	1,425
窃盗犯	21,493	14,448	13,710	13,336	11,945	11,193
知能犯	32	39	46	57	63	55

注)「触法少年」; 刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の者

資料: 警察庁「少年非行等の概要」(平成19年)